

【学校名】 気仙沼市立 気仙沼小学校

提言1	どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること
------------	----------------------------------

【実践のねらい】

より一層の児童理解を進めるため、児童の声に耳を傾ける時間を多くするとともに、学校全体で児童理解を進めるための体制をつくる。

【具体的な取組】

- ①授業中の意図的指名を心掛け、どの子も声を発する機会を設ける。
- ②学習支援員、TT授業などの実施により複数の目で児童を見守る。
- ③学習の約束や日常生活の約束を全校で統一し、週1回の打合せで児童の様子について共通理解を図る。
- ④年間3回の「こころのアンケート」、毎月15日の「いいこの日アンケート」の実施結果を全職員で共通理解し児童理解を深める。
- ⑤児童の観察やアンケートの結果より「気になる児童」にはSCによる積極的な教育相談を行っている。
- ⑥会議の効率化や時間短縮、事務職員の協力による学級担任の会計事務処理の負担軽減を図る。

【成果・課題】

- 毎週の打合せで情報交換をしていることにより、気になる児童を把握できている。
- 学習支援員やTT授業などにより、児童に関する情報交換が多くなされ、生徒指導に生かされている。

提言2	子供をほめること、認めること
------------	----------------

【実践のねらい】

児童を褒めたり、認めたりする機会を増やし、やる気を高めるとともに、自分を大切にしようとする気持ちをもたせる。

【具体的な取組】

- ①授業中の意図的指名による発言で達成感を味わえるようにする。
- ②学年・学級便りで児童の活動の成果の紹介する。
- ③校内に学校行事の記録の紹介コーナーを設け、児童の相互理解を進める。
- ④児童運営による児童集会を開催して活躍の場を設け、自己有用感をもたせる。

【成果・課題】

- 意図的指名で授業を進めることにより、偏った発言にならずにどの児童も声を発する機会をもつことができている。
- 学級・学年便りに返信欄を設けている学年もあり、家庭と学校の両方から子供を認めることにつながっており効果が感じられる。

提言3	授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置づけること
------------	--

【実践のねらい】

授業の流れを工夫し、単位時間の学習の充実を図る。

【具体的な取組】

- ①「気仙沼小学校指導過程基本型」による授業の工夫
 - ・「ねらい」「見通し」「学び合い」「まとめ」（適用問題）「振り返り・学習感想」の一連の流れを単位時間に位置付け教科に合わせて取り入れる。
 - ・意欲を高める学習問題にできるように導入を工夫する。
- ②「振り返り」や「学習問題」などを生かし、学習の連続性を意識付ける。

【成果・課題】

- 授業の流れはどの学級でも実現されてきており、児童もその展開になれてきている。
- 学び合いに時間がかかることがあり、適用問題の数を減らさざるを得ないことがある。

提言 4**自分の考えをノートにしっかり書かせること****【実践のねらい】**

ノート指導を通して思考力や表現力を伸ばすことができるよう、「思い」や「考え」を書く活動を授業に位置付ける。

【具体的な取組】

- ①黒板全体で一単位時間となるように板書の構造化を図る。
- ②ノートと板書が一致するように黒板にノートを意識したマス目を入れる。
- ③自分の考えをノートに書く活動の習慣化を図る。
- ④ICT機器を活用し、自分のノートを投影した発表を授業に取り入れる。

【成果・課題】

- ノートに自分の「思い」や「考え」を書く活動は日常的に行われるようになってきている。
- ノートを投影した発表を取り入れたことにより、見られることを意識したノートづくりをする児童が増えた。

提言 5**家庭学習の時間を確保すること****【実践のねらい】**

家庭学習の習慣化を図り、学習内容の定着を促す。発達段階に応じた課題に取り組ませ、基礎学力の向上をめざす。

【具体的な取組】

- ①「気小っ子はなまるカード」の活用により、家庭学習を習慣化する。
- ②全学年の家庭学習の内容や量を話し合い、発達段階に応じた家庭学習にする。
- ③放課後学習支援の日を週1回設定し、個々の学習の定着度を確認しながらレベルアップを図り、意欲につなげる。

【成果・課題】

- 全校で家庭学習について話し合いをもったことにより、内容や量について系統性が図られ、段階を踏んだ家庭学習にすることができた。
- 今後は中学校と連携を図り、小中間も系統だった家庭学習をめざしていきたい。

【学校名】 気仙沼市立 九条小学校

提言 1

どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること

【実践のねらい】

- ・児童一人一人に声掛けしながら小さなつまずきをとらえ、早急に対応できるようにする。
- ・生徒指導面で配慮を要する児童について全職員で情報を共有し、支援の手だてを講じる。

【具体的な取組】

- ・机間指導の際に声掛けし、既習事項をもとに課題の解決に取り組んだり、分かりやすい表現に気を付けて書いたりするように意識付けを図る。
- ・日常的に児童に声を掛け、必要に応じて放課後の補習を行ったり、ノートやプリント等に助言を書いて伝えたりする。
- ・毎月のいじめアンケートから児童の悩みや問題点を捉え、生徒指導委員会を開き、その後の指導経過や結果について全職員で情報の共有と指導対策の検討を行う。そして、生徒指導朝会で月の生活目標に関する児童の取り組みの様子を、全校で賞賛し合う。

【成果・課題】

- 児童への声掛けによって、学習のつまずきを早くとらえ、補充学習に役立てることができた。
- 机間指導の際に、既習事項をもとに課題の自力解決に取り組んだり、声の大きさや分かりやすい表現に気を付けて書いたりするように声を掛けることにより、意識して学習活動に取り組むようになってきた。
- 毎月児童の学校生活の様子について情報を共有することにより、各児童に適切かつ的確に声掛けや支援を行うことができた。
- おとなしい児童への声掛けが不足する傾向にあった。

提言 2

子供をほめること、認めること

【実践のねらい】

- ・授業中にほめ、認める機会を設け、児童一人一人に達成感や満足感をもたせたり、自己肯定感を高めたりする。

【具体的な取組】

- ・机間指導の際に、良い考えや表現等を拾い上げ、全体の前で紹介（アナウンス）する。
- ・ノートや作品、宿題等に賞賛や励ましの言葉を書き、良さを認める。
- ・児童の運営による集会等の児童会行事を行い、活躍の場を設け、自己有用感を味わわせる。

【成果・課題】

- できあがった作品を皆の前で賞賛したり、互いにアドバイスをしたりすることで、児童の自己肯定感が高まるとともに、相手を意識した言動が増え、互いに尊重し合う雰囲気ができた。
- 机間指導の際に、考えや表現を全体の前で紹介することにより、自信を深め、その後の学習活動に意欲的に取り組む姿が見られた。
- 賞賛する児童が偏ってしまい、全体への声掛けができなかった。



提言 3	授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること
【実践のねらい】	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入の際に、学習のねらいを明示し、終末時には、学習内容を振り返ったり、定着度を確認したりする場面を設定する。 	
【具体的な取組】	
<ul style="list-style-type: none"> ・各教科において、学習のねらいや学習の流れ、学習計画等を明示し、見通しをもって学習活動に取り組めるようにする。 ・算数科を中心に、終末時に適用問題に取り組みせ、習熟を図る。 ・学習感想を書かせ、児童の気付きやつまづきを把握し、授業の工夫、改善に努める。 	
【成果・課題】	
<ul style="list-style-type: none"> ○算数科では、授業の終末時にスキル帳の問題に取り組みせることにより、児童自身が学習内容の定着度を確認するとともに、教師も授業の評価をすることができた。 ●全教科の授業で適用問題や授業感想等の時間を確保できるよう引き続き授業改善に努めたい。 	

提言 4	自分の考えをノートにしっかり書かせること
【実践のねらい】	
<ul style="list-style-type: none"> ・教科や発達段階に応じて条件を決めて書く活動等に取り組みせることで、考えを整理して表現する力を付ける。 	
【具体的な取組】	
<ul style="list-style-type: none"> ・教師と同じ速さで板書内容をノートに書くように練習させる。 ・「キーワードを使って書く」「指定した行以内で書く」「まとめを自力で書く」などの条件に応じて自分の考えを書く時間を確保する。 ・算数の少人数指導担当者による算数のノートの内容の確認と書き方の指導を行う。 	
【成果・課題】	
<ul style="list-style-type: none"> ○算数の少人数指導担当者による算数のノートの内容の確認と指導を通して、見やすく、分かりやすいノートづくりに努める児童が増えてきた。 ●書く活動を意識的に取り入れることで書くスピードは付いてきたが、条件に応じて書く活動を継続し、さらに書く力を高めていく必要がある。 	

提言 5	家庭学習の時間を確保すること
【実践のねらい】	
<ul style="list-style-type: none"> ・「がんばりっこカード」を活用し、家庭学習の取組の様子（時間、内容等）について確認しながら学習習慣の確立と学習内容の定着を図る。 	
【具体的な取組】	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業と結び付いた宿題を出して学習内容の定着の様子を確認し、未定着のところを中心に復習させたり、補助指導を行ったりする。 ・発達段階に応じた「がんばりっこカード」を各学年で作成し、活用する。 ・家庭学習ノートや日記等に教師の励ましの言葉やコメントを入れ、学習意欲を高める。 	
【成果・課題】	
<ul style="list-style-type: none"> ○「がんばりっこカード」の活用により、家庭学習の取組の様子（時間、内容等）について把握し、指導に生かすことができた。 ○ノートや日記に教師の言葉を入れることにより、学習意欲が高まり、宿題や日記帳を提出する児童の姿が増えた。 ●未定着部分を補う学習が、自主的に行えるように内容や方法等について継続指導に努めていきたい。 	

【学校名】	気仙沼市立 鹿折小学校
--------------	--------------------

提言 1	どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること
-------------	---

【実践のねらい】
授業を中心に学校生活全般で、児童と触れ合う場を多く設けることで、児童への理解を深める。

- 【具体的な取組】**
- ・毎日学級全員の子供と話すことで、話しやすい雰囲気作りを行う。
 - ・授業中は、考えをノートに書かせることで個々の考えを把握し、個に応じた賞賛や励ましをする。
 - ・職員間で児童についての情報を共有し、一人一人に目を向ける。

- 【成果・課題】**
- 子供の考えを把握し、個に応じた対応をすることができた。
 - より詳しく話を聞きたいこともあるが、思うように時間が確保できない。

提言 2	子供をほめること、認めること
-------------	-----------------------

【実践のねらい】
互いに認め合う場の設定とともに、達成感のある授業づくりをすることで、自己肯定感を高める。

- 【具体的な取組】**
- ・行事での活躍や、係・当番活動等で頑張っている点を積極的に紹介する。
 - ・授業や朝の会・帰りの会等で、友達の良いところを認め合う時間（作品や行動など）を設定する。
 - ・挙手だけではなく、意図的指名によって全員の児童の考えを取り上げ、考えを深めたり広げたりすることで、達成感を味わわせる。

- 【成果・課題】**
- 友達の良いところを吸収し、自分の活動に生かそうとする様子が見られた。
 - 毎日の積み重ねが大切だが、友達の良いところを認め合う時間は、不定期になりがちである。

提言 3	授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること
-------------	---

【実践のねらい】
学習の見通しをもたせるとともに、児童の実態を把握し、授業づくりに生かす。

- 【具体的な取組】**
- ・単元の第1時に、単元全体のねらいを確認し、学習のゴールを明確にする。
 - ・1時間ごとの授業を、「本時のねらいの確認」→「自分の考え」→「友達の考えを聞く」→「適用問題」「振り返り（感想）」の流れで授業を行う。
 - ・終末には必ず適用問題に取り組みせ、学習内容を理解できたか、自分でも確認できるようにする。
 - ・適用問題の理解度や学習感想を基に、個々の児童について、本時のねらいの達成度を把握するとともに、本時の課題点を明らかにし、次時の授業づくりに生かす。

【成果・課題】

- ねらいを明確にすることで、児童自身が学習のゴールを意識して取り組むことができた。
- 振り返り（学習感想）は、低学年では時間がかかるので、「書く」ことの積み重ねが必要である。

提言 4**自分の考えをノートにしっかり書かせること****【実践のねらい】**

ノートづくりの指導を工夫することで、児童の思考力・表現力を育てる。

【具体的な取組】

- ・年度初めに、全学年でノートづくりについて共通理解する。
- ・ノートは、「本時のねらい」→「自分の考え」→「友達の考え」→「適用問題」「振り返り（感想）」の、授業の流れが分かる構成にする。
- ・ノートに書いた考えを、授業の中で交流し合う。また、友達の考えを聞いてメモさせるなど、考えの流れが分かるようなノートにする。
- ・言葉だけではなく、絵や図・式なども用いて、考えを可視化させる。
- ・前時までの振り返りに、ノートを活用する。

【成果・課題】

- ノートの活用によって自分の考えが整理でき、自信をもって考えを発表できた。
- 設定された時間の中で自分の考えを書かせるために、低学年からの積み重ねが大切である。

提言 5**家庭学習の時間を確保すること****【実践のねらい】**

家庭での学習習慣を身に付けさせる。

【具体的な取組】

- ・「家庭学習の手引き」を配付し、学年に応じた家庭学習のねらいと取組み方を家庭に知らせる。また、学級だよりや懇談会等で、家庭学習への取組状況を発信し、家庭と連携しながら進める。
- ・音読・漢字練習・プリントまたは自学に毎日取り組ませる。
- ・「家庭学習カード」を活用し、教師と家庭が取組の様子をチェックし、習慣化を図る。

【成果・課題】

- 「家庭学習カード」に児童や保護者の確認欄を設けることで、意欲付けと習慣化につながった。
- 低学年は、内容がワンパターンになりがちなので、内容の工夫が必要である。
- 中・高学年の自学は、学習内容に個人差があるので、友達の良い取組を紹介しながら内容の充実を図る必要がある。

【学校名】 気仙沼市立 松岩小学校

提言 1 どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること

【実践のねらい】

- 1 朝の会、帰りの会、給食時間や掃除の時間など教育課程全般で子供たちに声を掛けたり、話に耳を傾けたりして、学級や学年における人間関係作りを充実させる。
- 2 児童の心の声を理解し、「心のサポート」を行う。

【具体的な取組】

① 「心のサポート」IN 教室・廊下・職員室

○学級における認め合い

- ・朝の迎え、朝の会、健康観察、給食、休み時間、帰りの会等の時間中の工夫。

(例) <朝の時間>

- ・教室で子供を迎える際、名前を呼んで挨拶をする。
- ・健康観察の際気になる児童は、一日折りに触れて声掛けする。

○学年を超えた活動の充実

- ・たてわり遊び(月1回)・上学年による挨拶運動(月・金の朝)



全校仲良く

縦割り遊び

② 「心のサポート」IN 保健室

- ・気分転換できる場(息抜き、クールダウン、家庭に近い空間の役割)であるように心掛け対応。
- ・家庭的に問題のある児童、震災で家族を失ったり、怖い体験をした児童には声掛けや見守りを強化。

【成果・課題】

- 各学級で行っている「心のサポート」について全職員で共有し、児童理解および人間関係作りを行っている。学校の職員全体で児童を見守ることがなされ、落ち着いた環境で学習できている。
- 児童一人一人への声掛けを行うことを意識はしているものの時間的に難しい場合がある。

提言 2 子供をほめること、認めること

【実践のねらい】

- 学習のねらいに応じ、子供をほめ認める場を設けることで、自己肯定感を高め、より主体的に学習に取り組もうとする意欲や態度を育てる。

【具体的な取組】

- ① 学年に応じて誉め、児童の肯定感を高める。

<低学年>

学習態度や姿勢なども誉め、学習規律を根付かせる。

<中学年>

個に応じた言葉で頑張りの過程を誉め主体性を高める。

<高学年>

是々非々の対応を意識する。児童に目標をもたせ、達成感をもたせる。

- ② 組織的に誉める。

- ・他の先生方と情報交換をし間接的に誉めると、児童には大変効果的である。そのために教員同士の情報交換の時間を大切にす。

【成果・課題】

- 頑張っている過程を誉め認めることで、苦手な事柄にも主体的にチャレンジしようとする態度が養われた。
- 言動として表出しにくい児童については誉めることができないこともある。個別支援の必要な児童が多い学級では、一斉に対しての「是々非々」の対応が難しくバランスが取りにくい。

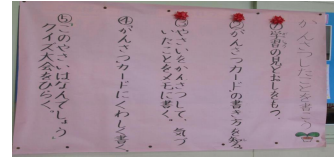
提言 3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること

【実践のねらい】

○ 1 単位時間で育てる力を明確に位置付けた授業作りとその振り返りの時間を充実させることで、児童一人一人の学力向上を図る。

【具体的な取組】

- ① 授業パターンの確立を行った。
 - ・ 学習の見通しをもたせる学習計画表の掲示。
 - ・ 身に付けさせたい力を意識した学習課題の提示。
 - ・ 思考の流れに沿う発問。
 - ・ 構造化しノートに合わせた板書。
 - ・ 学習内容に応じた振り返りの時間の充実。(基本問題, 学習感想)
 - ・ 振り返り内容のチェック。→補充, 補説。



児童に示す「学習計画表」

【成果・課題】

- 上記のように学習の流れを定着させたことで、児童が学習の見通しをもち活動することができた。
- 授業感想を書かせる時間を保証するために指導過程の工夫が必要である。
- マンネリに陥らせないよう意欲・関心を高める工夫が必要である。

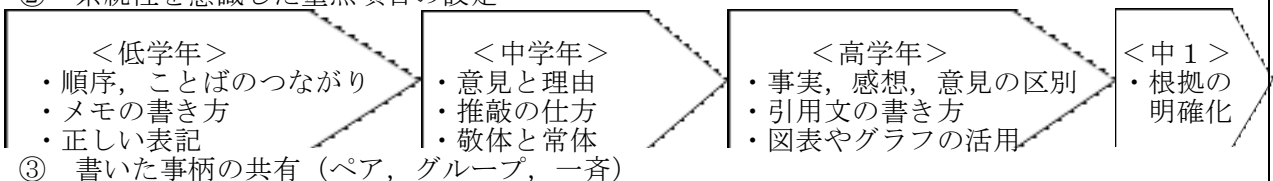
提言 4 自分の考えをノートにしっかり書かせること

【実践のねらい】

○ 校内研究で培った「書く力」を各教科・領域に生かし、自分の考えを書く場面を設けることで、思考力・表現力の伸張を図る。

【具体的な取組】

- ① 「書く力」を他教科・他領域に波及する。
 - ・ 自分の考え, 予想, 学習感想を書く。・・・「算数」「社会」「理科」
 - ・ 鑑賞カード, 観察カード, 生活科カードを視点をもたせて書く。・・・「図工」「音楽」「理科」「生活科」
- ② 系統性を意識した重点項目の設定



【成果・課題】

- 書くことへの抵抗感が減り、自分の考えを書くことができるようになった。
- 書いたものをペアやグループで共有する方法を工夫する必要がある。

提言 5 家庭学習の時間を確保すること

【実践のねらい】

○ 学年に相応した家庭学習の内容と取組時間のモデルを示し、家庭学習による学習の定着を図る。

【具体的な取組】

- ① 家庭学習の推奨・・・4月第1週に「家庭学習のてびき」(保護者版)を配布し啓蒙する。また児童用のてびきも作成し、学級開き後早々に指導を行う。
- ② 家庭学習の実際(10月下旬現在)

<家庭学習の取組の実際>

学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特支
学習時間	20分	30分	40分	50分	60分	70分	算数・音読 漢字・音読
学習内容	音読,		算数プリント,		漢字学習		
	自主勉強						

- 全学年「音読」「算数プリント」「漢字学習」を取り入れることで、基礎・基本の定着を図る。
- 高学年は、中学校の家庭学習との連携を図り、自主学習(課目及び予習・復習の選別は児童が自主的に行う。)を推奨する。

【成果・課題】

- 学校全体で家庭学習を推奨することで、家庭でも学習習慣を身に付けさせることができた。
- 復習を意識した算数プリントの配付により、基礎・基本の定着が図られている。
- 自主学習の見取りの時間の確保が難しい。

【学校名】

気仙沼市立 水梨小学校

提言 1**どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること****【実践のねらい】**

- ・児童の情緒の安定を図り、自信をもって日々の学習や暮らしに取り組めるよう適応力をつける。

【具体的な取組】

- ・児童が話しかけて来た時、必ずその話を聞くよう心がける。
- ・登校時に、その顔色や体調を観察しながら、あいさつをしたり、言葉がけをしたりする。
- ・学校生活全般の中で、児童とのふれあいを多くもつ。
- ・毎週末の日記指導を通して児童の暮らしや考えを知る。

【成果・課題】

- 児童が安心して学校生活に取り組むようになり、積極性の育成や情緒の安定に役立っている。
- 児童の体調や、家庭や学校生活の中での課題や変化を早く知ることができ、その後の指導や連絡・調整に生かすことができた。
- 学校生活の中で社会性に問題をかかえている児童もいる。いつ、どんな言葉をかけるか、児童の問いかけに具体的にどう答えるか、教師も言葉の力や指導法を磨いていくことが必要。

提言 2**子供をほめること、認めること****【実践のねらい】**

- ・子供をほめ認めることで、児童の自尊心や自己有用感を高め、日々の学習や生活などについて、さらに積極的に取り組んでいく気持ちや態度を高める。

【具体的な取組】

- ・学習時に進んで発表したり、よい気付きをしたりした時、また、以前よりも字や数字をていねいに書くなど改善や向上が見られた時に児童をほめる。
- ・日々の学校生活の中で友達や下級生などへの思いやりが感じられた時や、進んでゴミを拾ったり、友達の机の周り片付けを手伝ったりするなど、よい行いが見られた時にほめる。

【成果・課題】

- 一人一人が認められることで、日々の学習や生活に積極的に取り組むようになり、学習時においても集中力が増すようになった。
- 情緒的に落ち着かず、時に反抗的な行動などが見られた児童が、落ち着いて学校生活に取り組むようになった。
- 「頑張ったね」など一人一人を認める言葉をかけると、「僕、頑張っていないよ。」と否定的な言葉を返す児童もいる。そのような児童にどう関わっていくか。
- 発達障害が疑われる児童へどんな言葉をかけるか、どのようにその児童の行動を認め励ましていくか。

提言 3**授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること****【実践のねらい】**

- ・その時間に何をねらい、どんな学習をするのか児童自身に目的意識を明確にさせる。
- ・学習の理解度・定着度を確認し、その後の指導に生かす。
- ・自分の考えをまとめ、文章で表すことで記述力や文章表現力を伸ばす。

<p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の導入で、本時のめあてを音読させたり、ノートに書かせたりすることで学習のめあてを具体的につかませる。 ・授業の終末に漢字スキルや計算スキル、小テストを含んだプリントを用いて取り組ませる。 ・本時の学習で分かったことや思ったことなどをノートに書かせる。
<p>【成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習内容が分かったという実感や、次時の学習への意欲をもたせることができた。 ○学習内容の定着度を知ることができ、その後の指導に役立てている。 ●適用問題や小テストは日々、実施しているが、それに比べ、授業感想を書かせる機会は少ない。ノート指導を見直し、授業感想を書く機会を多く増やしていくことが必要である。

<p>提言 4</p>	<p>自分の考えをノートにしっかり書かせること</p>
<p>【実践のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の学習の中で書く時間を確保し、自分の考えをまとめる力、文章表現力、記述力を高める。 	
<p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書く時間を確保するため授業展開を工夫する。 ・国語の学習等でワークシートやノートを用い、書く機会を多く持つよう指導する。 ・日記指導を通して、日々の暮らしの中で経験したこと、見聞きしたこと等に対し、自分の感想や考えを書かせる。 	
<p>【成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを見つめ直したり、友達の考えと交流させたりすることで、自分の考えを広げたり深めたりできるようになってきた。 ○文字を正しく書く、短時間で正確に書くなどの記述力がつき、書くことへの抵抗力が減ってきた。 ●自分の考えをまとめることに時間のかかる児童もいる。そのような児童に、どのように関わっていくか。 	

<p>提言 5</p>	<p>家庭学習の時間を確保すること</p>
<p>【実践のねらい】</p> <p>児童の知識・理解の定着と学習習慣の形成を図り、学習意欲を高める。</p>	
<p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低・中・高学年ごとに「家庭学習のしおり」を配付し、各学年に応じた家庭学習の仕方を紹介し、保護者の協力を得て取り組む。 ・音読、九九の練習など毎日、取り組むべき内容を含んだ家庭学習カード（がんばりっこカード）を配付し、日々の取組状況をチェックする。 	
<p>【成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の継続につながっている。 ○教科書等の音読が苦手だった児童もつかえずに音読できるようになるなど、技能の向上や意欲の喚起につながった。 ○保護者が児童の家庭学習の様子を知る手がかりになっている。 ●家庭学習カード（がんばりっこカード）は、早寝・早起き・朝ご飯など、日常生活の指導も含んだカードなので、学習面に限られる傾向があり、工夫が必要である。 ●両親が朝・晩交代で働くなど、児童の家庭学習などに手が行き届かない家庭もある。担任としては、その都度、連絡帳で伝えるなどしているが、そのような家庭にどう働きかけていくか。 	

【学校名】 気仙沼市立 新城小学校

提言 1

どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること

【実践のねらい】

- ・子どもが考えを話したくなるような学級づくりをし、生徒指導や学習指導に生かす。

【具体的な取組】

- ・一人一人が伸び伸びと自分の考えを話すことができる学級の雰囲気作り
→友達の発言に傾聴させる。間違いを責めない、笑わない。途中で発言が止まってしまったときも、教師が一方的にまとめずできるだけ自分の言葉で言えるように待つ支援をする。
- ・意図的指名により全員に発言の機会を与える。話形提示をして話すことに慣れさせる。
- ・「きん YOU タイム」の実施・・・毎週金曜日の帰りの時間に音楽を流し、身の回りの整理整頓をする。児童にもものを大切にしようとする気持ちをもたせ、落ち着いた学習環境を整える。
- ・日記指導・・・普段全員の児童には直接声をかけきれない場合もある。日記を書かせ、それを読んで共感的なコメントを書く。

【成果・課題】

- 1年生も少しずつ話すことになれてきた。
- 身の回りの整理整頓ができるようになってきた。
- できるだけ児童の声に耳を傾けたり、声がけしたりする時間を確保すること。

提言 2

子供をほめること、認めること

【実践のねらい】

子どものがんばりや向上的な変容の様子を見つけほめることで課題解決への意欲を高める。

【具体的な取組】

- ・授業中の児童のつぶやきや発言、学習の様子を見取り、機を逃さずほめる。
- ・授業後や宿題のノートにコメントを加えたり、その状況をチェックしたりして全体に紹介する。

【成果・課題】

- 児童のがんばりや向上的な変容をほめることで、児童の意欲が高まり継続した取り組みやより高い課題設定につながった。
- 一人の児童をほめることが周りの児童にも波及し好影響を与えた。
- タイミングを逃さず児童のがんばりをほめること。

提言 3

授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること

【実践のねらい】

授業感想を書かせることで本時で学習したことの理解状況を把握するとともに、課題点を明らかにして補充指導をして確実な定着を図る。

<p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の適用問題や補充問題，計算スキルの時間を確保する。 授業の最後に記号を使ってノートに本時の理解度を自己評価させ，その理由や学習感想を書かせる。書かせる際に，学年に応じて，例えば6年理科であれば「地層」という言葉を示して表現させる等，キーワードを使わせる。 ノートを回収してチェックし適宜評価するとともに，課題については補充学習し定着させる。
<p>【成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時で学んだことを振り返ることで，学習内容が明確になり理解度が高まるとともに，自分の課題にも気付くことができる。 ●評価が曖昧にならないように自己評価の観点を明確にすること。 ●学習感想を記述する時間を確保するためには，学習感想を書く時間から逆算して授業を組み立てることが必要。

提言 4	自分の考えをノートにしっかり書かせること
<p>【実践のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 考えをノートに書かせることで自分の考えを明確にさせるとともに，思考を整理させる。また，表現力を育てる。 	
<p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題について自分なりの解決方法を図や式，言葉などで書かせる。 校内研究の授業の視点に「自分の考えを書いて表現し見つめさせる」ことを位置付ける。 	
<p>【成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○考えた方法を筋道立てて説明することができるようになってきた。 ○多様な方法で考えようとする意欲が高まってきた。 ○自分の考えを書いて表現させることは，自分の考えを明確にしたり，資料の登場人物への気持ちを深く考えたりする上で有効であった。また，授業者が児童の考えを把握して意図的な指名をしたり，意見を交流させ，考えを深めさせたりする上でも効果的であった。 ●多様な考えを見取り，一人一人の考えを認め励ます場面を職員間で共通理解するなど，指導の工夫をすること。 	

提言 5	家庭学習の時間を確保すること
<p>【実践のねらい】</p> <p>毎日，家庭学習の時間を設定することで学習習慣を身に付けさせたり，学力を高めたりする。</p>	
<p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「家庭学習の手引き」を作成し，各学年の家庭学習時間の目安を決めたり，自主学習の内容の例を示したりする。また，月ごとに家庭学習のめあてを立てさせ，達成できるように声がけをする。 音読，漢字，算数，自主学習の4つを家庭学習の基本とする。 	
<p>【成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○目安の時間を意識しながら，語句の意味調べや人物調べ，実験の振り返りなど様々な家庭学習をするようになった。 ●個人の学力に合った家庭学習を出すこと。 	

【学校名】 気仙沼市立 月立小学校

提言 1	どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること
-------------	---

【実践のねらい】

学習における児童の「分からない」という声に耳を傾け、個別に声掛けや指導を行う機会を増やす。また、全職員で児童の実態把握や指導を行う体制づくりをする。

【具体的な取組】

- ・業前に行っている朝学習の時間に、学級担任の他に管理職を含め1～2名の職員が指導に入り、複数体制で指導を行う。基本的に学級担任が個別に支援が必要な児童への指導、それ以外の職員がドリルの丸付け等を行うように役割分担している。
- ・職員会議等で児童についての情報交換の場を設定し、児童の実態についての共通理解を図る。

【成果・課題】

- 個別に支援が必要な児童への指導ができ、一人一人への声掛けの回数も増えた。その他の児童についても、丸付け等で待たせることが減り、朝学習の時間をこれまで以上に有効に活用できるようになった。
- 児童の実態を共通理解することで、担任だけでなく、全職員で児童を指導したり、見守ったりする体制ができている。
- 朝学習については、行事や出張等のため、複数体制での指導回数を十分に確保できない時もあった。

提言 2	子供をほめること、認めること
-------------	-----------------------

【実践のねらい】

多くの人の前で発表し称賛されたり、友達を認め合ったりすることで、活動への意欲を喚起するとともに、自己肯定感をもてるようにする。

【具体的な取組】

- ・授業中のよいつぶやきや気づきを取り上げ、積極的に称賛したり、認めたりする。
- ・全校朗読発表会の機会を設け、良かったところ等の感想を伝え合わせる。
- ・鹿踊りを外部で発表する機会を積極的にもつ。

【成果・課題】

- 授業で意欲的に発言したり、問題に取り組んだりする児童が増えた。また、児童同士が互いの考えの良さや頑張りを自主的に励まし合う声が聞かれるようになった。
- 全校朗読発表会では、毎回ほぼ児童全員が発言し、他の学年の発表に対して様々な視点から良かったところを見つけられるようになった。
- 日々行っている音読や鹿踊りの練習の活動に自信や目標をもって取り組めるようになった。

提言 3	授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること
-------------	---

【実践のねらい】

本時の学習の理解度を教師が把握するとともに、児童が達成感を得られるようにする。

【具体的な取組】

- ・授業の終末に適用問題に取り組ませたり、学習感想を書かせたりすることを校内研究の視点の一つとして、重点的に取り組む。

【成果・課題】

- 校内研修会で適用問題や学習感想の有効性について職員で確認し、授業の終末に積極的に位置づけるようになってきている。また、児童が学習内容をどの程度理解できているかという実態を把握し、授業の進め方や個別の指導等に生かすことができている。
- 終末の段階で時間を確保するのが難しいが、日常的に継続して取り組めるようにしたい。

提言 4 自分の考えをノートにしっかり書かせること**【実践のねらい】**

自分の考えを明確にもって授業に臨み、それをもとに話し合い活動で筋道を立てて説明できるようにする。また、見やすく分かりやすいノートづくりをしている児童の頑張りを認め、他の児童の意欲喚起を図る。

【具体的な取組】

- ・全校でノートの使い方を統一する等、ノート指導を校内研究の視点の一つにして重点的に指導する。また、ノート指導について先進的な取組をしている方を講師に招き、研修会を行う。
- ・自分の考えや友達の考え等を分かりやすく書いている児童のノートをコピーし、全校児童の目に触れる場所に設置した「ナイスノートコーナー」に掲示する。

【成果・課題】

- 算数で式や言葉、図、グラフ等を使って分かりやすく自分の考えを説明しようとする姿勢が見られるようになってきている。
- 他学年の児童のノートを見て、褒め合っている様子が見られ、「自分のノートも取り上げてほしい」という意欲喚起にもつながっている。
- ナイスノートは毎回同じ児童にならないように配慮するとともに、より効果が上がるように各教室でも話題に挙げて称賛していくと良い。

提言 5 家庭学習の時間を確保すること**【実践のねらい】**

児童や家庭に家庭学習の時間を意識させ、発達段階に応じた家庭学習の時間を確保する。

【具体的な取組】

- ・全学級担任で話し合い、系統性を考慮した家庭学習カードを作成して使用する。また、家庭学習に取り組んだ時間を記入する欄を設け、毎日記入させるとともに、家庭からのサインをもらう。
- ・「家庭学習の手引き」を作成し、学習参観の際に保護者に協力を呼びかける。

【成果・課題】

- 担任によって家庭学習の分量に差が出ることがないように発達段階に応じた学習時間を確認することで、学年相応の家庭学習に取り組ませることができている。
- 児童・保護者に家庭学習に取り組む時間を意識させ、「家庭学習の手引き」をもとに、保護者と連携して家庭学習の指導にあたることができている。
- 家庭学習カードは、今後も継続して使用し、担任間で話し合いを行いながら改善を図っていく。

【学校名】	気仙沼市立 階上小学校
--------------	--------------------

提言 1	どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること
-------------	---

【実践のねらい】

全職員で生徒指導上の問題や学習において配慮が必要な児童の情報を共有し、児童理解に努め、全ての児童が安心して落ち着いて学校生活が送れ、児童と職員の元気なあいさつの響き合う学び舎を目指す。

【具体的な取り組み】

- ・ 年度当初、全校で配慮が必要な児童の情報交換を行い、職員会議や打ち合わせで情報の共有を図った。常に情報の共有を心掛け、管理職の指導を基に家庭や地域と連携しながら児童に指導が行えるようにした。
- ・ 休憩時間や給食時間、清掃活動の時間を全職員が児童と共に過ごすことで、多くの児童に声掛けを行いながら、児童理解に努めた。
- ・ 学年に応じて、朝や帰りの会の「ありがとう発表」や「日記指導」を児童との交流の場とし、励ましや賞賛を児童に伝えた。
- ・ 毎月の生活・生徒指導アンケートの結果では、養護教諭・スクールカウンセラーとの連携を図り、的確な対応に努めた。

【成果・課題】

- 校内で情報を共有することで、職員が各児童に的確な声掛けを行うことが出来た。
- 児童と触れ合う時間や児童一人一人にしっかりと目を向けることができるようにするため、職員のゆとりを作り出す必要がある。

提言 2	子供をほめること、認めること
-------------	-----------------------

【実践のねらい】

学習活動に表現の場を確実に位置づけ、児童の表現を教師が認め褒めることから、友達の良い表現を知りたい、自分も認められたいと意欲を示し向上し合う、学び合いのある授業を目指す。

【具体的な取り組み】

- ・ 個人での思考の場において、的確な表現（使われている語句や書き込まれている表現など）をしている個の考えを教師が全体にアナウンスして賞賛し、書いた児童へ自信をもたせるとともに周りの児童にヒントを与えた。
- ・ 全体で比較検討する場において、発表する児童に教師が寄り添い認めることで自信をもって発表させた。聞く側の児童にも、聞こうとする行動に集中させるため、褒め言葉など教師の働き掛けを工夫し発表者の考えが全体に伝わるようにした。
- ・ 個人ごとに再思考させる場においては、正解を賞賛する他に、解答できない児童が最後まで粘り強く問題に取り組む姿を賞賛したり、ノートに賞賛の言葉を添えたりしながら、今後の学習意欲にも繋がるようにした。

【成果・課題】

- 学習に粘り強く取り組む児童が増えている。
- 教師が的確な賞賛ができるよう、教材研究を一層深めていきたい。

提言 3	授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること
-------------	---

【実践のねらい】

児童の意欲を高める学習課題の工夫、ねらいに即した適用問題の設定など教材研究に努め学力を育む授業を目指す。

【具体的な取り組み】

- ・ 児童の実態や発達段階を見極め、驚きや発見のある問題提示の仕方を工夫し、児童が意欲的に学習に取り組むようにした。校内研究の算数科では、「解けそうだけど、前時までと違う」問題など系統性や類型性を考慮した。
- ・ 授業の終末には必ず適用問題や授業感想を記述する時間を確保し、児童の学習への取り組みを認め賞賛した。
- ・ 振り返りの授業感想は、学年に応じて計画し、高学年では学習のキーワードを感想に入れて学習を振り返らせることで課題の定着に努めた。

【成果・課題】

- ねらいを明確に示すことで、児童は学習内容を理解し、学習に意欲的に取り組む姿が見られた。
- 後から自分のノートを開いて、解決の助けになるようなノート指導を行い、板書とノートの一体化を図りたい。

提言 4**自分の考えをノートにしっかり書かせること****【実践のねらい】**

書くことにより、自分の考えをより確かなものとし、自分の考えを友達に広めていこうとする児童を目指す。

【具体的な取り組み】

- ・ 算数科では、立式した根拠を、具体物や半具体物などのイラスト、図や表、グラフ、数直線などを用いて表現させた。
- ・ 自分の立場を明確にし話し合いを活性化させるため、自分の考えの理由を入れて書き出させた。
- ・ 時間内に自分の考えをまとめることが出来なかった児童には、友達との情報交換の場で相手はどんなふうにとまとめているかを見ることで、次回の表現に生かすようにさせた。

【成果・課題】

- 考えを書き出させることで、自分と向き合わせ、自分の考えをより明確にさせることができた。
- 授業の中に考えを書く時間を確実に設定する指導過程を継続する。

提言 5**家庭学習の時間を確保すること****【実践のねらい】**

学習内容の定着と、学習習慣の定着をねらい、最低（学年×10）分の家庭学習を目指す。

【具体的な取り組み】

- ・ 学年初めの保護者会で、家庭学習について説明し理解と協力をもらい、保護者との連携を図ることができた。
- ・ 学年に応じた「家庭学習カード」や「自学カード」を工夫し、賞賛したり励ましたりしながら毎日取り組ませることができた。

【成果・課題】

- 賞賛や励ましを行うことで、家庭学習の日常化が図られている。
- 個に応じた学習内容の指導を図りたい。

【学校名】	気仙沼市立 大島小学校
--------------	--------------------

提言 1	どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること
-------------	---

【実践のねらい】

授業の中で児童が発言する時間を確保し、表現の場を設けることによって、児童の考えを確認し、話し合う場面を増やす。また、学校生活アンケートを毎月実施し、児童理解を深める。さらに、児童会の活動であいさつ運動を実施し、校内のあいさつの活性化を図る。

【具体的な取組】

- ①少人数のよさを生かし、授業中の発言を全員ができるように、机間指導を重視している。授業者は座席表を用意し、児童の考えをチェックし、意図的指名を集団解決に生かしている。
- ②毎月1回生活アンケートを実施し、必要に応じて相談を実施するなどして役立てている。
- ③毎朝校門に5・6年生が立ち、あいさつ運動を実施している。委員会毎に当番制になっており、全校児童同士があいさつを交わしている。

【成果・課題】

- 児童は、授業中に必ず考えを発言することを意識しており、考えを話す意欲をもつとともに、友達の考えをよく聞く姿勢を身に付けてきている。
- 毎月1回の生活アンケート調査を行うことで、生活の様子を児童の視点から把握でき、教育相談における共感的理解に役立てることができた。
- あいさつ運動は、児童会の伝統として受け継がれている。この運動を通して、児童と教師だけでなく児童同士のあいさつがしっかりと行われている。毎朝あいさつで始まることによって、お互いのよさを感じることもできた。
- 少人数で過ごしている安心感や、大勢の前で話す機会の少なさからか、話すことに自信がもてず、相手を意識した声の大きさやしっかりとした話し方が身に付いていない児童が多く見られる。さらに、話す機会を増やす工夫が必要である。

提言 2	子供をほめること、認めること
-------------	-----------------------

【実践のねらい】

児童が頑張った姿を認め、ほめる機会を多くすることで、自己肯定感を高める。

【具体的な取組】

- ①校内研究教科の算数の授業を中心に、授業の終わりに振り返りの活動を設定し、自分の取組や友達の活動のよさを話し合う。
- ②児童会の行事や学校行事等で頑張った児童の活動のよさを紹介したり、感想を発表させたりする。
- ③校内に、児童の入賞記録等を紹介するコーナーを設置し、紹介する。
- ④定期的実施しているたてわり活動で、児童同士でお互いの活動のよさを話す時間を設ける。

【成果・課題】

- 授業の振り返りで自分の取組や友達の取組のよさを感じることで、相手や自分のよさを知ることができた。
- 児童は、学校行事や児童会行事では感想を発表することを意識している。感想を発表することは、自分を振り返ることにつながり、自己肯定感を高めることにつながる。
- 活躍したり発表したりする機会が、積極的な児童に偏ることがあるので、できるだけ多くの児童に機会を与えるように配慮する必要がある。

提言 3	授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること
-------------	---

【実践のねらい】

学習課題を必ず示し、課題に対する解決方法をまとめることによって、学習のまとめを意識した授業を展開する。さらに、実態に配慮した適用問題を与えることで、達成感をもたせる。

【具体的な取組】

- ①校内研究教科の算数の指導で、学習したことを適用させるための手だてを検討し、授業研究会では授業づくりの視点の一つとして話し合う。
- ②集団解決で出された児童の言葉を使って、学習課題に対するまとめをする。
- ③児童の発達段階に応じた振り返りの進め方を工夫し、学習感想を書く時間を確保する。

【成果・課題】

- 学習課題とまとめを意識した授業を展開することによって、学習内容についての理解が深まり、適用する意欲につながる。また、課題に対して自分の学習を振り返ることは、主体的な学びの姿ととらえることができる。
- 振り返りの進め方の学年間のつながりを検討しなければならない。

提言 4 自分の考えをノートにしっかり書かせること**【実践のねらい】**

考えの理由を明らかにして書くことを重視し、自分の考えをノートに書く時間を確保することで、思考力を育てる。

【具体的な取組】

- ①ノートに考えを書く時間を学習過程に位置付け、解決の見通しをもたせてから自力解決の活動に入り、考えを書かせる。
- ②発表用ボード等の活用により、全員に書いた考えを発表させる機会を多くする。

【成果・課題】

- 児童は、見通しによって自力解決の意欲をもち、ノートに素早く書く姿勢が身に付いてきている。
- 低学年からノートに考えをしっかりと書く習慣を大事にすることによって、発表する意欲にもつながり、自分の考えをしっかりと話し、友達の考えをよく聞く姿勢も育ってきた。
- 学年の段階に応じて考えの理由や根拠を書けるように、繰り返し指導が必要である。
- 書くことが遅い子どもに対する訓練が必要である。

提言 5 家庭学習の時間を確保すること**【実践のねらい】**

どの児童も、全員が、毎日の家庭学習を習慣にし、取り組むことが当たり前ととらえ、家庭にもその進め方を理解して協力してもらえるような取組を継続する。

【具体的な取組】

- ①全校で統一した家庭学習カード「しまっ子がんばりカード」を使用し、家庭での学習への取組や早寝早起き朝ごはん等の生活習慣の定着も図る。4月に行う学級懇談会で、保護者に向けた「家庭学習の手引き」や児童向けの「自学メニュー」等も配布し、「ルルブル」への取組とも関連させて説明した上で、保護者の理解のもとに進められるようにする。
- ②新年度が始まった週に、3年生以上の学年で、「自学メニュー」を活用し、自主学習への取組の仕方について指導する。「自学メニュー」は、中学年版と高学年版とを作成し、発達段階に合わせた内容をおさえている。自主学習については、児童の取組の様子を見ながら繰り返し指導する。
- ③月1回、「家庭学習振り返りの日」を設定し、「しまっ子がんばりカード」や自主学習への取組について、各学級で最終週の木・金曜日のどちらかに、振り返りをする。その際に、「家庭学習振り返りカード」に記入させ、児童の振り返りを基に、短時間の面談を行い、個別に助言する。「家庭学習振り返りカード」は家庭に持ち帰らせ、保護者に励ましの言葉をもらうようにする。また、11月の保護者教育相談では、それまでの振り返りカードを資料として活用しながら、家庭での取組の様子について話し合う。

【成果・課題】

- 「しまっ子がんばりカード」の提出率は100%に近く、学習習慣の定着につながっている。
- 振り返りの日の実施により、自分の取り組みを振り返り、次に向かう課題を担任と相談しながら進めることができた。
- 保護者の事情により取組の仕方に個人差が見られる。家庭との連携について、現在取り組んでいる手だてを継続させ、質的な面で深めることができるように働き掛けていく必要がある。

【学校名】 気仙沼市立 面瀬小学校

提言 1	どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること
-------------	---

【実践のねらい】

学習過程に「書く」活動を意図的に設定し、児童に効果的な声掛けを行ったり、より深まりのある感想を取り上げたりすることで、子供の思考力や表現力・伝え合う力を伸長する

【具体的な取組】

主に、今年度校内研究で取り組んでいる国語科の学習において、「見通し」段階では予想や課題設定、「展開」段階では読み取りの分析や考察、「まとめ」段階では結論や感想等について「書く」活動を意図的に設定した。設定に当たっては、単元の内容や学年の発達段階及び児童の実態に応じ、「何を」「どのように」書くのかを明確に示し、児童一人一人が十分に思考・判断し、表現することができるようにした。教師は、机間指導しながら助言や補助的な問いかけ、賞賛等の声掛けにより思考を促したり、児童の記述内容をもとに意図的指名に生かし、多様な考えを引き出して話合いの活発化を図ったりした。また、児童の記述への朱書きのコメント等による評価を繰り返して、児童のがんばりを細やかに見とるように努めた。

【成果・課題】

- 「書くこと」を基にした細やかな見取りと具体的な声掛け等によって、個に応じた支援の充実を図ることができた。
- 個人差に十分対応できるよう、かける言葉やタイミング等の働きかけや記述内容からの児童の思考の見取り等、教師の指導力（知識と技術）を向上させる必要がある。

提言 2	子供をほめること、認めること
-------------	-----------------------

【実践のねらい】

児童一人一人のがんばりが生かされる場を意図的に設定し、児童が達成感や充実感を十分に味わうことができる授業を創造する。

【具体的な取組】

「みやぎ授業づくりスタンダード」の理論と実践に基づいた国語科の授業づくりを校内研究として推進し、算数科の学習では、TT や少人数指導、学び教室（LD 通級）での指導を計画的・継続的に実施することによって、個に応じた指導・支援の充実を図り、児童一人一人が「分かる」「できる」を実感できる学習展開や指導形態等の工夫に努めた。その際、特に「誤答」や「稚拙な考え」や「つぶやき」も大切に取り上げ、理由や思考の組立を明確にすることによって、児童の活動を尊重する指導姿勢で授業に臨んできた。

【成果・課題】 ※箇条書きで2～3点

- 学習に対する児童の関心・意欲が向上し、積極的に学習に取り組む児童が増えてきた。
- 「誤答」も、陥りやすいミスや正答を導く筋道を学ぶ上で、貴重な考える資料になることを児童に意識付け、授業づくりに生かしていきたい。

提言 3	授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること
-------------	---

【実践のねらい】

児童一人一人が見通しを持って学習に取り組み、学習の基礎・基本を確実に習得することができるように、学年の発達段階や児童の実態に応じた学習過程のパターン化を図る。

【具体的な取組】

国語科の学習では、「みやぎ授業づくりスタンダード」の理論と実践例を参考に、単元計画表の作成と活用を通して、児童が見通しを持って学習に臨めるようにした。また、単位時間の学習のねらいや達成に向けた展開の道筋や重点活動が明確となるような学習計画を提示した。「ノート指導」としては、「めあて」を青線枠、「まとめ」を赤線枠に、終末に「振り返り」として「分かったことや考えたこと、感想等」を記述することなどをパターン化することを、国語科と算数科の学習において全校で取り組んでいる。算数科の学習では、教科書の適用問題に加え、副教材も活用し、習熟に力を入れている。

【成果・課題】

- パターン化することによって、児童の主体的に学習する態度が育ちつつある。
- 個人差に十分に対応するために、時間の確保や家庭学習との連携等の配慮が必要である。

提言 4**自分の考えをノートにしっかり書かせること****【実践のねらい】**

児童が、自分の考えをしっかりとめながら、学習の要点を身に付けたり、思考を深めたりすることが出来るように、ノート指導の充実を図る。

【具体的な取組】

自分の考えを、順序よく筋道立てて書くことができるように、「はじめに」「次に」等の書き出しをカードで支援する工夫をしている。また、必要に応じて付箋やホワイトボードを活用し、自分の考えを書き出し、それらの並び替えなどを通して構造的に整理してノートに書かせるようにしている。さらに、高学年では「キーワードを使って」「○字以内で」等、条件を付けた書かせ方も取り入れている。

【成果・課題】

- 「書く」活動の積み重ねによって書くことへの抵抗感が薄れ、書くことによって自分の考えをまとめようとする力が育ちつつある。
- 自分の考えをまとめるために駆使できる語彙の種類や数に個人差があり、それを補うために読書活動の一層の推進を図る。（「読み聞かせ」の推進・面瀬小60冊（推薦図書）の設定等）

提言 5**家庭学習の時間を確保すること****【実践のねらい】**

既習事項の基礎・基本を確実に定着させるために、家庭学習の習慣化を図る。

【具体的な取組】

「教科書等の音読」「漢字の書き取り」「計算練習」に毎日取り組むことを、全学年で実施している。さらに、授業と連動した課題（事後の確認、次時の前提学習、発展問題）を課することも工夫している。取組状況については、月毎に学級担任がまとめ、学年・学級便り等で取り上げ、家庭にフィードバックし、その取組について各家庭への周知を図っている。

【成果・課題】

- 家庭学習の日常化が図られ、積極的に「自主学習」に取り組む児童が増えてきた。
- 学力向上につながる、家庭学習の内容や自主学習への取り組みませ方等を吟味する必要がある。

【学校名】 気仙沼市立 唐桑小学校

提言 1	どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること
-------------	---

【実践のねらい】

認められる経験を積ませることによって、集団の一員としての所属感や安心感をもたせる。また、子どもの話を傾聴することで話すことの楽しさを実感させる。

【具体的な取組】

- ・朝の健康観察や給食の際、個々に対して一言添えたり、一人一人の近況を聞いたりする。
- ・休み時間は児童とともに過ごす時間を多くする。

【成果・課題】

○児童の何気ないつぶやきを授業に生かすことができる場合があるので、指導者の立場で児童の言動に、より注意を払うようになった。

○発表することに対する児童の抵抗が少なくなっている。

●話すことに対して消極的な児童に対しては、さらに意識的にコミュニケーションをとる必要がある。

提言 2	子供をほめること、認めること
-------------	-----------------------

【実践のねらい】

よさを認め励ますことによって自己肯定感や自尊感情を高めさせ、学習意欲の向上や動機付けを図る。

【具体的な取組】

- ・机間指導やノート指導の際に、よい考えを取り上げて紹介する。
- ・子どものがんばりを見つけ、言葉にしてしっかりとほめる。
- ・帰りの会で、児童相互に認め合う時間を設定する。

【成果・課題】

○自己肯定感をもち、明るく元気に登校している児童が多い。

●指導しているうちに注意事項が多くなりがちなので、意識してほめることを増やしていきたい。

●帰りの会での取り組みが形骸化してしまう恐れがあるので、内容の工夫改善を図りたい。

提言 3	授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること
-------------	---

【実践のねらい】

ねらいを明確にすることにより、本時に学ぶべき事項を児童が意識して学習できるようにし、終末に振り返らせることによって学習効果を上げる。

【具体的な取組】

・導入で学習課題を提示し、学習の見通しをもたせる。終末には適用問題を解く時間を必ず設定して、その時間の学びを振り返る。

・導入時のねらいの提示と終末での適用問題が、流れに沿ってつながっていることを意識させる。

・学習感想を適用問題の解決に生かすようにする。

・低学年は授業感想を顔のマークで描かせるなど負担が少ないように工夫する。

【成果・課題】

- ねらいを明確にすることで、本時の活動が明確になって見通しをもつことができている。
- 終末の活動を通して「解けた!」「できた!」という充実感をもって授業を終わることができている。指導者としては、本時の評価ができ、次時に生かすことができる。
- 児童自身がどんなことを学んだかを実感して学習を振り返ることができる。
- 終末の時間を確実に確保する授業展開を意識する必要がある。

提言 4 自分の考えをノートにしっかり書かせること

【実践のねらい】

自分の意見を文章化させることによって主体的に授業に参加している実感をもたせるとともに、思考力や表現力の向上を図る。

【具体的な取組】

- ・算数の時間に自力解決の時間を設け、自分の考えを図や言葉を使ってノートに書かせる。
- ・友達の発表を聞いて気付いたこと、自分とは異なる考え、方法などをメモする習慣を付けさせる。
- ・付箋を活用して考えを書き加えることで視覚的な効果を上げ、思考の流れを明確に記録させる。

【成果・課題】

- 式や筆算の中に言葉や図を付け加えて、自分の考えをより分かりやすく書こうとする姿勢が見られた。
- 書くことに対する抵抗感が薄れつつあり、自分と友達の考えを比較する姿が見られるようになってきた。
- ただ座って聞いているだけでなく、自分で考える時間を確保することができる。
- 時間配分を適切にしたい。
- 文章を書くことが得意な児童と苦手な児童では、学習速度に大きな開きがある。それぞれに応じた手立てで改善を図る必要がある。

提言 5 家庭学習の時間を確保すること

【実践のねらい】

家庭の協力を得て学習時間を確保することによって学力向上を図るとともに、児童が主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせる。

【具体的な取組】

- ・「家庭学習の手引き」を配布し、家庭の協力を得ながら各学年で設定した学習時間を確保する。
- ・宿題の他に自学自習を取り入れ、チャレンジしたいことを進んで学ぶように呼びかけている。
- ・授業の進度に合わせた課題を与えている。

【成果・課題】

- 自ら課題を見つけ、苦手だと思ふところを復習してくる児童が増えてきた。
- 学習内容を紹介するなど手立てを工夫し、マンネリ化を防ぐ必要がある。
- 家庭の協力が十分でなく、宿題が提出されなかったり内容がおざなりになってしまったりするので、家庭に対してさらなる啓蒙が必要である。
- 宿題以外の学習に取り組まない児童も多いので、「将来の自分のため、目標を実現するためでもある」という視点をもたせていきたい。

【学校名】	気仙沼市立 中井小学校
--------------	--------------------

提言 1	どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること
-------------	---

【実践のねらい】

全職員で児童の様子や状況について共有化を図り、より多くの視点から対応策を考え、必要に応じて、複数体制で指導を行えるようにする。また、得た情報をもとに迅速に指導を行い、問題行動の未然防止や家庭への働きかけに役立てる。

【具体的な取組】

- ・週に1度、職員会議や定例の打合せの際に、「児童理解の場」を設けている。学級や児童の様子について情報交換を行い、心配な児童がいる場合は、全職員の目で見取ったり、声掛けを行ったりする体制をつくる。必要に応じて具体的な対策を考える場にもなっている。
- ・月に1度、児童に「生活ふり返りカード」を書かせている。生活全般について、自己評価（3段階）するとともに、悩みや相談があれば、記述欄に記入できるようになっている。今年度は、月始めに先月分の振り返りをした後、カードを生徒指導主任に提出し、その後、管理職も確認している。さらに、カードに書かれた悩みや相談に対して指導した経過も報告する。
- ・年に2度、全児童との「教育相談」を設定している。休み時間や放課後の時間を利用して、数日間に分けて実施する。児童が生活ふり返りカードに記入できなかったことを相談したり、担任から気になっていることを児童に働きかけたりする機会にしている。

【成果・課題】

- 担任だけでなく、全職員で児童理解を行うことで、意図的に声掛けしたり、複数の職員で指導を行ったりするなど、一人一人の児童に合った指導や家庭への働きかけを行うことができた。
- 「生活ふり返りカード」や「教育相談」で知り得た情報をもとに、積極的に指導を行い、問題行動の早期発見及び早期解決を図ったり、問題行動の未然防止に役立てたりすることができた。

提言 2	子供をほめること、認めること
-------------	-----------------------

【実践のねらい】

児童が活躍する場を増やし、それに対して自己評価をしたり、感想を伝え合ったりすることで、達成感や自己有用感をもたせる。また、次の活動への意欲を高める。

【具体的な取組】

- ・朝会の形態として、各学年による「発表朝会（国語関係）」や「歌声朝会（音楽関係）」を各学年で年1回ずつ設定している。その際、各学年から数名ずつ感想を発表させている。
- ・朝会の中に、各委員会による「はつらつ朝会」や、縦割り班毎の「縦割り集会」をそれぞれ年2回ずつ設定している。「はつらつ朝会」では委員会のメンバーが、「縦割り集会」では6年生のリーダーが中心となって企画・運営を行っている。
- ・朝の会や帰りの会で、日直等によるスピーチを行って感想を伝える場や、友達のがんばりを発表するコーナーを設け、日常的に取り組みさせる。

【成果・課題】

- 全校の前で発表する機会を多く設定することで、大きな声での発表に慣れ、発表に対する自信がついてきている。
- 感想を求めた際に、進んで手を挙げて感想を伝えようとする児童が増え、多くの感想を聞くことで、発表した児童もさらに達成感を感じることができた。
- 朝会で発表する際、練習等に多少時間を費やしてしまう。特に、行事等が重なると、指導する教員にも児童にも負担になることがあった。時期をずらしたり、回数を減らしたりする必要がある。
- 感想や友達のがんばりを伝える内容がパターン化してしまうことがあった。話をする観点や表現の幅を広げるために、手本となるような児童の発表を取り上げたり、ときには、教師が手本を示したりする必要がある。

提言 3	授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置づけること
<p>【実践のねらい】 児童が、1単位時間の授業のめあて（課題意識）を明確にもちながら課題解決を図り、授業の終末に適用問題に取り組みさせることで、学習内容の理解を確かなものにする。また、学習感想を書かせることで、学習内容や授業中の気づき、友達の考えのよさなどを再度振り返らせるようにする。</p>	
<p>【具体的な取組】 ・校内研究（算数科）の一環として、実践している。今年度は、宮城県総合教育センターで編集・発行している「確かな学力への入り口『みやぎ授業づくりスタンダード』の活用」並びに、宮城県教育委員会から配付されている「算数・数学ステップ・アップ5」のリーフレットを参考にして、算数科学習指導過程基本型を作成した。指導過程の中に、「ねらい達成のために適切な学習課題の設定」、終末での「適用問題への取組」「学習感想の記述」を位置づけ、それをもとに、授業を組み立て、実践している。</p>	
<p>【成果・課題】 ○ねらい（課題）を明確につかませることで、児童はより強い課題意識をもって学習に取り組むことができるようになった。また、授業の終末に、適用問題に取り組みせたり、学習感想を書かせたりすることで、その時間の中で何を学んだのかを児童がより捉えやすくなり、学習内容の理解が高まってきている。 ●一単位時間の授業の中に位置づけてはいるものの、授業の進み具合で、最後までいかないときもある。指導過程をさらに吟味するとともに、教師の発問や声掛けも吟味して実践する必要がある。</p>	

提言 4	自分の考えをノートにしっかり書かせること
<p>【実践のねらい】 自分の考えをノートに書かせ、それをもとにペアや全体で交流することで、思考力や表現力を育てる。</p>	
<p>【具体的な取組】 ・校内研究（算数科）の視点の中に、「思考の過程が見えるノートづくりの工夫」「進んで考えを伝え合う学習形態の工夫」を設定し、どのように指導すればよいか研究を進めている。今年度は、学年部毎にどのようにノートを使わせるか（項目や色分け、学習感想の観点など）を検討し、共有した。さらに授業研究の中でペア学習や全体での交流の仕方についても話題に挙げ、よりよい指導法を研究している。</p>	
<p>【成果・課題】 ○発達段階により、どのように（式や言葉、図、数直線、表など）、どれくらい書かせたらいいのか、また、書いたノートをどのように活用したらいいのかを検討したことで、低学年から段階的に指導を積み上げる素地をつくることができた。書く時間を確保することで、書くことには慣れてきた。 ●指導の改善を図りながら、思考力や表現力を効果的に高めていく方法を探っていく必要がある。</p>	

提言 5	家庭学習の時間を確保すること
<p>【実践のねらい】 全児童が家庭学習の時間を確保するとともに、小学校6年生までには、主体的に家庭学習に取り組んだり、自分で課題を決めて自主学習ノートに取り組んだりできるようにする。</p>	
<p>【具体的な取組】 ・年数回、保護者向けに研究便りを発行し、家庭学習に取り組むことの大切さを啓発するとともに、家庭学習への取り組み方（学年毎の目安の時間や取組例）などの情報を提供する予定である。また、校内研修の中で学年毎の家庭学習の取組ませ方について情報交換を行い、指導の改善に役立てている。</p>	
<p>【成果・課題】 ○校内研修で家庭学習の取組ませ方について共通理解を図り、それをもとに学年毎の指導を行うことができている。 ●学年に応じた段階的な自主学習ノートへの取り組み方などは、今後さらに検討する必要がある。 ●児童の意欲を高め、さらに継続させるために、学級便りで児童の取組を紹介したり、教師や保護者の励まし（コメントや声掛け）を定期的に行ったりするなど、指導を工夫していく必要がある。</p>	

【学校名】 気仙沼市立 小原木小学校

提言 1

どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること

【実践のねらい】

普段の学級集団としての生活の中だけでなく、1対1で児童と向き合う時間を設定し、児童理解に努める。

【具体的な取組】

- 月に1回、いじめアンケートを実施し、気になるところがあれば、注意して様子を見たり面談を行ったりする。
- 学期に1回、教育相談を実施し、個別に面談する。

【成果・課題】

- 日常では見えない児童の悩みなどを知ることができる。
- アンケートの書かせ方（時間の確保や方法）に慎重さが必要である。

提言 2

子供をほめること、認めること

【実践のねらい】

自分の長所をとらえさせ、認め合うことでこれからの生活に生かし、さらに伸ばそうとする態度を養う。

【具体的な取組】

- 1単位時間の中で、できるだけ全員に発表の機会を与えることにより、個々の考えを認め、共有していく活動を行う。
- 様々な機会でSGE的な要素を取り入れる。
学活「自分らしさを見つけよう」で資料の登場人物のよいところを見つけさせる。（否定的な話を肯定的にとらえる）。
互いにインタビューし合わせる。（がんばったこと、優しくなれたと感じたこと、成長したこと、できるようになったこと、うれしかったことなど）
全校業前活動での学年音読発表や音楽発表等で発表を見た児童に感想を発表させる。

【成果・課題】

- 自分のよさ、友達のよさを再発見できてよかったという感想が児童から挙げられた。
- 恥ずかしがって話せないことがある。
- より深い感想を引き出せるような声掛けがあるとよい。

提言 3

授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること

<p>【実践のねらい】 学習展開の基本型をもとに授業を進め、課題に対するまとめや振り返りの活動を位置付ける。</p>
<p>【具体的な取組】 ○構造的な板書に心掛け、課題を明確しに、学習内容を振り返られるようにする。 ○適用問題として、授業の終末に内容に対応するドリルに取り組みさせる。 ○授業感想を書く際には、課題やキーワードなど、書くポイントを指示して取り組みさせる。 ○時間が足りないときは、◎○△で自己評価させたり、口頭で発表させるなど短時間での振り返りを取り入れる。</p>
<p>【成果・課題】 ○適用問題や感想を書く時間を意識して確保することで授業のテンポがよくなった。 ○パターンが定着すると自主的に振り返りをするようになった。</p>

提言 4	自分の考えをノートにしっかり書かせること
<p>【実践のねらい】 授業の形式をパターン化することで、自分の考えをノートに書く力を身に付けさせる。</p>	
<p>【具体的な取組】 ○板書の形式をパターン化し、自分の考えを自主的に書く意識をもたせる。 ○ノートに書いた自分の考えをもとに、友達と考えを交流させることで、自分の考えを広めたり、深めたりする機会とする。</p>	
<p>【成果・課題】 ○自分の考えをノートに書かせることで、考えが明確になり、表現しようとする意欲が高まる。 ●ノートに書いた考えを発表させる方法など、分かりやすく時間をかけない工夫をしたい。</p>	

提言 5	家庭学習の時間を確保すること
<p>【実践のねらい】 家庭学習に取り組みさせる意欲を向上させるための工夫をする。</p>	
<p>【具体的な取組】 ○「家庭学習の手引き」の児童用と家庭用を配布し、家庭学習の内容や方法を確認させることができるようにする。 ○「ホームワーク大作戦」を行い、自分で家庭学習への取り組み方を点検する。 ○「宿題ポイント表」を取り入れ、丁寧な字で正しく取り組めたらポイントを上げる。</p>	
<p>【成果・課題】 ○計画的に取り組もうとする意識が高まった。 ●取組に個人差があり、意欲が続かない児童がいる。 ●家庭との連携の仕方に工夫が必要である。</p>	

【学校名】 気仙沼市立 津谷小学校

提言 1	どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること
-------------	----------------------------------

【実践のねらい】

- ・ 「全校あいさつ運動」を実施することで、きちんとした挨拶をできるようにさせるとともに、誰にでも挨拶をする習慣を身に付けさせる。

【具体的な取組】

- ・ 1学期の反省から、「挨拶を活発にした方がよい」という意見が出たため、計画委員会で話し合わせ、2学期から始業前の15分間に昇降口前に立って、「全校あいさつ運動」に取り組ませている。はじめは計画委員が行っていたが、他の委員会の児童からも「やってみたい」という声上がり、曜日を決めて委員会毎に輪番制で取り組むようにした。

【成果・課題】

- 全校児童に挨拶をしてほしいという願いをもって取り組んでおり、委員会児童の意識が高まってきている。
- 委員会以外の児童の挨拶に対する意識はなかなか高まっていない。校内だけでなく、今後更に地域の方々への挨拶へと広げていきたい。

提言 2	子供をほめること、認めること
-------------	----------------

【実践のねらい】

- ・ 児童の考えを褒めたり認めたりすることで、達成感や自己肯定感を味わわせる。

【具体的な取組】

- ・ 自力解決やグループ学習の際に、机間指導をしながら児童個々の考えを見とり、児童にとって興味・関心の高まる声掛けや、取組の姿勢を認めたり褒めたりする声掛けをすることで、学習に対する意欲を高める。
- ・ 朝の会に「津谷っ子おしゃべりタイム」を設定して共通のテーマでスピーチをし、質問で話題を深めたり感想を交流したりする。

【成果・課題】

- 考えを認められることで自信をもって発表することができるようになってきている。
- 授業中だけに限らず、休み時間に声を掛けたり、帰りの会のよい行いの紹介なども活用したりして更に機会を増やしていく必要がある。

提言 3	授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること
-------------	--

【実践のねらい】

- ・ 授業の終末に学習感想を書かせたり発表させたりすることで、授業で分かったことや考えたことを振り返らせるとともに、次時の指導に生かす。

【具体的な取組】（5年 算数科）

- もっとしたいこと
- よかった考えやアイデア
- 便利なこと
- できるようになったこと
- 分かったこと

- ・ 算数科における学習感想の観点を示して、学習内容によって観点を担任が指示したり児童が選んだりして書かせている。学習ノートは回収し、担任が目を通して内容をチェックし、次時の指導に生かしている。

【成果・課題】

- 学習したことを自分の言葉で表現することで、児童の振り返りになっている。更に、記述内容を担任が見ることで、評価の一助とすることができる。
- 終了時間が迫ることが多く、学習感想を全体で共有するまでには至らないこともある。

提言 4

自分の考えをノートにしっかり書かせること

【実践のねらい】

- ・ 自分の考えを確実にもたせ、それをノート等に表現して交流を図り、よりよい考えに気付かせる。

【具体的な取組】

- ・ 自分の考えをもたせるために、キーワードを探したり大事な箇所にサイドラインを引いたり、教科書の挿絵や資料を活用させたりすることで、書いてあることをしっかりと捉えさせる。
- ・ 考えを表現させるために、教科の特性に応じてノートを上下や左右に分けて使い、板書と自分の考えや友達の考えを書き込めるようなノート作りをさせる。また付箋紙を使って考えを交流し、よりよい考えに気付かせる。

【成果・課題】

- 付箋紙による交流は、ノートに残すことができるので振り返りに有効である。
- 自力解決の難しい児童には、ヒントカードなどの工夫も必要である。

提言 5

家庭学習の時間を確保すること

【実践のねらい】

- ・ 学習習慣と基本的生活習慣の形成を目指す。

【具体的な取組】

- ・ 全校で統一した家庭学習カードを活用し、学習時間の目安や月毎の目当てを決めて取り组ませ、月末には自己評価を行う。また、基本的生活習慣の形成や体調管理も基本と考えることから、水泳学習の時期と持久走練習の時期には、毎朝の検温も記入するようにしている。

【成果・課題】

- 継続して取り组ませることで、家庭学習習慣が定着してきている。
- 単に記入して提出するだけの取組になっていないか、その都度担任からの評価と声掛けが必要である。内容についてもその都度指導が必要である。

【学校名】

気仙沼市立 馬籠小学校

提言 1**どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること****【実践のねらい】**

- ・教師と児童、および児童相互の理解を深め、全ての児童が楽しく有意義な学校生活が営めるように援助し、健全な個性の伸長と人間関係づくりにつなげる。

【具体的な取組】

- ・児童自身が自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりする場を、授業時間の中に意図的に設定する。
- ・毎月11日に全校児童を対象に「学校生活アンケート」を実施し、実態を把握するとともに教職員間で共有する。

【成果・課題】

- 児童が自分の考えを伝える機会を十分に確保できるのは、小規模校のメリットである。しかし、一方では、いろいろな考え方に触れるという点では課題も残る。
- 児童が学校生活の中で感じる友達との小さなトラブルについて、担任に話しやすい環境を作ることができた。また、調査結果を職員間で共有し、日常的な指導に活用することができた。

提言 2**子供をほめること、認めること****【実践のねらい】**

- ・児童自身が、自己肯定感や自己有用感を高め、集団の中で達成感や所属感を味わいながら学校生活を送ることができるようにする。

【具体的な取組】

- ・学級の中での当番活動や係活動では、日常的に取り組むことができるような内容を工夫させながら取り組ませる。また、学期の途中や学期末などに、その取組について振り返る活動を設定し、児童同士がその頑張りを認め合うことができるように工夫する。「学級のためにできること」を意識させながら活動させることで、自己有用感を味わわせる。
- ・朝の会や帰りの会の時間で、スピーチの時間を設定し、自分や友達の頑張りを発表したり、テーマに沿った話題を共有したりするを通して、達成感や自己肯定感を味わわせる。

【成果・課題】

- あらゆる教育活動において、児童が自己の役割を自覚して取り組むことができた。このことを、教職員が称賛し、認めたことで自己有用感が高まった。
- 児童が認められたことを実感できるような声掛けの仕方を、教師がさらに意識したり、異学年間の交流の場を活用したりして、相互評価できるような活動を工夫していく必要がある。

提言 3**授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること****【実践のねらい】**

- ・研究教科である国語科を中心としながら、各教科の指導において、教師が授業のねらい（身に付けさせたい力）を意識しながら授業の組立を工夫することで、児童が基本的な学習の流れを意識しながら見通しをもって取り組むことができるようにする。

<p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元のゴール（学習のまとめ）を意識しながら学習に取り組むことができるように、単元の学習計画表を作成し掲示する。 ・各教科において「重要語句3つを使って」や「2つの文で」、「5行で」などの条件を提示しながら、授業のねらいに沿った学習感想を書く時間を設定する。
<p>【成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の初めに、ゴールとなるもの（単元末の言語活動等）を提示しながら指導にあたることで、一単位時間ごとに身に付けなければならない力を、児童に意識させることができた。 ○条件提示による学習感想を書くことを設定したことで、書くことに抵抗感を感じる児童が少なくなってきた。今後は、内容の充実化を図る必要がある。 ●児童の主体的な学びを促すことができるような学習計画表を工夫していく必要がある。

提言 4	自分の考えをノートにしっかり書かせること
<p>【実践のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートに自分の考えや友達のことを書く活動を通して、学びを深めたり、学習の振り返りに活用したりすることができるようにする。 	
<p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れが分かるような「構造的な板書」を意識しながら授業を展開する。 ・授業の中で、自分の考えをワークシートやノートに書く時間を十分に確保する。 ・年度当初に、教科の特性に応じたノートの使い方を教師と児童で確認し、共通ルール（日付、ページ、色等）のもとで指導にあたる。 	
<p>【成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「課題、まとめ、感想」など、各教科の特性に応じたノートづくりを意識しながら指導することができた。また、児童は、ノートづくりのルールに基づいて学びを深め、授業に取り組むことができた。 ●自分だけのノート「マイノート」を意識しながらのノート指導を充実させていく必要がある。 	

提言 5	家庭学習の時間を確保すること
<p>【実践のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携しながら、家庭学習の時間を確保することを通して、学習習慣を確立し、学力の定着につなげるようにする。 	
<p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに、各家庭に「家庭学習の手引き」を配布し、目安となる学習時間「学年×10分＋10分」を提示する。 ・発達段階に応じた「家庭学習カード」を活用する。（週毎の目標や振り返りの欄の設定） ・長期休業中の「学習室」の設定。 	
<p>【成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年の発達段階に応じた「家庭学習カード」を活用したり、基本的な生活習慣の定着を図るような内容を盛り込むなどの工夫をしたりすることができた。また、それを活用することで、児童の家庭学習に対する取組の習慣が定着してきた。 ●目安となる学習時間の設定だけではなく、学習内容の充実をさらに図っていく必要がある。 ●家庭学習の必要性や重要性について、保護者の理解を一層深め、連携を強化していく。 	

【学校名】

気仙沼市立 小泉小学校

提言 1

どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること

【実践のねらい】

教師が子供の考えや意見を共感的に受け止めて取り上げたり、取り組みについて具体的にほめたりすることにより、学びの達成感を高める。

【具体的な取組】**1 年生活科「がっこうだいすき」(第6次 たんけんでみつけたことをはなそう)の授業実践**

教師は、机間指導を通して子供一人一人と関わり、考えを拾い、授業に生かした。前時までに「がっこうたんけん」を通して見つけた事柄について、子供との対話を通して明らかにしていった。子供は、自分の思いを教師に取り上げてもらったことで安心感をもち、楽しそうに発言していた。また、施設があり、多くの人が学校生活を支えていることが分かり、それによって安心して遊びや生活ができることに気付いていた。(平成27年度 校内研究実践)

<授業記録>

T 「保健室には、身長計の他にばんそうこうがあると○○ちゃんが言ってたんだけど、どんな人が行く所ですか。」

C 1 「病気の人や熱があつたり、ケガをした人が行くところ。」

T 「よく気付いたね。保健室がなかったら？」

C 2 「病院に行く。」

T 「誰のためにあるのかな？先生のため？」

C 2 「みんなのため。」

T 「なかったらどんな気持ち？」

C 3 「嫌な気持ち。」

T 「他にどんな教室がありますか。」

C 3 「音楽室。」

T 「もしも、音楽室がなかったら？どこで音楽のお勉強をするのかな。ピアノを運ぶ？」

C 3 「音楽室には、ピアノがあるから音楽室がなかったら困るなあ。」

T 「いろいろな教室があつて、いろいろなものがあるけど、みんなが勉強しやすいように教室に工夫があるんだね。」

**【成果・課題】**

○生活科の学習において、子供の思いを引き出し、学習のねらいを達成させることができた。

○担任と子供の信頼関係を築くことができた。

●授業のねらいに迫るためには、計画的な発問が必要である。その一方で児童の思いや気付きを教師の都合のいいように誘導しないよう注意する必要がある。

提言 2

子供をほめること、認めること

【実践のねらい】

子供同士が安心して話せるような信頼関係を築く。

【具体的な取組】(5年生の実践)

帰りの会において、子供のよさを取り上げたりよい行動等を紹介しあったりした。

また、教室の壁面に友達のよい点やよい行動を記入したカードを累積掲示している。

**【成果・課題】**

○児童相互が友達のよさを見つめ直し、互いを認め合う契機となった。教室内の言い合いが減り、よりよい学級にしていこうという雰囲気が生まれた。

提言 3	授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること
【実践のねらい】 適用問題や振り返りの時間を確保し、子供に学習の成果を自覚させる。	
【具体的な取組】 算数の時間において、教科書の適用問題だけでなく補充問題にも取り組ませ、学習したことが身に付いたかどうか確認させた。 また、振り返りの視点を示した上で、学習感想を書かせ、学んだことを整理させた。	
【成果・課題】 ○子供が学習の成果を自覚し、成就感をもつことができた。 ○教師は、子供の理解の度合いを知り、指導に生かすことができた。 ●すべての時間に、適用問題を行ったり振り返りを書かせるためには、発問の精選や自力解決の適切な時間配分に気を付ける必要がある。	

提言 4	自分の考えをノートにしっかり書かせること																				
【実践のねらい】 課題に対する自分の考えを書く時間を確保し、学び合いや伝え合いの言語活動につなげる。																					
【具体的な取組】 6年国語「持続可能な社会」への取り組みについて調べよう(題材名「未来に生かす自然のエネルギー」)の授業 「再生可能エネルギー」について図や語句を手掛かりに読み取ることができるようにした。 中心発問に対する考えを持たせるために書く活動を行わせた。																					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 35%;">主な学習活動</th> <th style="width: 35%;">○主な発問</th> <th style="width: 20%;">児童の反応</th> <th style="width: 10%;">・指導上の留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 本時の課題を知る 本論2で資料や具体例がどのように使われているかを考えよう</td> <td></td> <td></td> <td rowspan="5"> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を確認させる。 ・書く活動を行い一人一人に考えをもたせる。 ・ペアで意見を交換させる。 ・振り返りの観点を与える。 </td> </tr> <tr> <td>2 本時学習部分を音読する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3 再生可能エネルギー源について読み取る。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4 筆者の主張を考える。 ○筆者は、自分の主張を伝えるために、どのような工夫をしていますか。 ○筆者が述べたかったことは何ですか。</td> <td></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフや地図、写真を使っている。 ・「現状」→「具体的な取り組み」→「課題」→「解決策」の順で述べている。 ・「使い切りエネルギー源」から「再生可能エネルギー源」へ切りかえる必要性がある。 </td> </tr> <tr> <td>5 本時の学習を振り返る。(音読、振り返り)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		主な学習活動	○主な発問	児童の反応	・指導上の留意点	1 本時の課題を知る 本論2で資料や具体例がどのように使われているかを考えよう			<ul style="list-style-type: none"> ・課題を確認させる。 ・書く活動を行い一人一人に考えをもたせる。 ・ペアで意見を交換させる。 ・振り返りの観点を与える。 	2 本時学習部分を音読する。			3 再生可能エネルギー源について読み取る。			4 筆者の主張を考える。 ○筆者は、自分の主張を伝えるために、どのような工夫をしていますか。 ○筆者が述べたかったことは何ですか。		<ul style="list-style-type: none"> ・グラフや地図、写真を使っている。 ・「現状」→「具体的な取り組み」→「課題」→「解決策」の順で述べている。 ・「使い切りエネルギー源」から「再生可能エネルギー源」へ切りかえる必要性がある。 	5 本時の学習を振り返る。(音読、振り返り)		
主な学習活動	○主な発問	児童の反応	・指導上の留意点																		
1 本時の課題を知る 本論2で資料や具体例がどのように使われているかを考えよう			<ul style="list-style-type: none"> ・課題を確認させる。 ・書く活動を行い一人一人に考えをもたせる。 ・ペアで意見を交換させる。 ・振り返りの観点を与える。 																		
2 本時学習部分を音読する。																					
3 再生可能エネルギー源について読み取る。																					
4 筆者の主張を考える。 ○筆者は、自分の主張を伝えるために、どのような工夫をしていますか。 ○筆者が述べたかったことは何ですか。		<ul style="list-style-type: none"> ・グラフや地図、写真を使っている。 ・「現状」→「具体的な取り組み」→「課題」→「解決策」の順で述べている。 ・「使い切りエネルギー源」から「再生可能エネルギー源」へ切りかえる必要性がある。 																			
5 本時の学習を振り返る。(音読、振り返り)																					
【成果・課題】 ○自分の意見を書くことで理解の定着や思考の深まりが見られた。また、隣席同士による意見交流→全体の場での説明の際に意欲的に発言することができた。 ●子供が考えを書きたくなり、考えたくなるような発問の工夫が必要である。																					

提言 5	家庭学習の時間を確保すること
【実践のねらい】 生活習慣と学習習慣を見直して継続的に家庭学習に取り組むことができるようにする。	
【具体的な取組】 「生活習慣チェックカード」の活用	
【成果・課題】 ○「生活習慣チェックカード」で子供の生活時間等を把握し、教師がアドバイスすることで、子供と保護者の生活習慣の見直しが図られ、家庭学習の時間の確保に結びつけることができた。 ●カードへの記入活動がマンネリ化しないよう、言葉がけやアドバイスを適宜行う必要がある。	

【学校名】 気仙沼市立 大谷小学校

提言 1	どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること
-------------	----------------------------------

【実践のねらい】

どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けることにより、実態や変容を捉え、学級経営や学習指導に生かす。

【具体的な取組】

- ①情報の共有と、個に応じた児童理解
 - ・全校児童の顔と名前が一致するように、全職員による挨拶等の声掛けをする。
 - ・「職員会議」や「定例打合せ」において、定期的に情報交換を行い、不登校、いじめ等の未然防止に努める。
- ②高学年による「あいさつ運動」の励行
 - ・家族や地域の方々、先生方に対して積極的に挨拶をすることで礼儀作法を意識させるとともに、よりよい人間関係づくりに生かし、自分が関わる人たちへの感謝の気持ちを涵養する。

【成果・課題】

- いじめやトラブルに発展しそうな事例についての情報を共有することで、早期の指導をすることができた。
- 生活アンケートや心のアンケートを行い、いじめなどの実態を正確に把握することは十分とはいえない。また、アンケート結果の有効活用については、更に検討が必要であり、児童への声掛けの仕方についても配慮をする必要がある。

提言 2	子供をほめること、認めること
-------------	----------------

【実践のねらい】

特別活動や学級活動において、意欲的、積極的な活動を褒め、児童が互いの良さを認め合うことで、自己存在感、自己肯定感を味わうことができるようにする。

【具体的な取組】

- ①教師による具体的な言葉による称賛を行う。
 - ・活動の継続や目標達成などの良い場面を捉え、次の取組につながる言葉掛けをその場その場で行う。また、各担任へも具体的に知らせ、情報の共有を図る。
 - ・作品やワークシートにコメントを記入し、何が良いかを児童が理解しやすい内容で称賛する。
- ②「話すこと・聞くこと」の学習と関連した活動
 - ・朝の会のスピーチ活動を充実させ、児童の日常的な出来事に耳を傾けることで、児童の変容をとらえる。
 - ・児童相互の意見交換の場では、児童が考えを自由に話し、相手の意見に耳を傾け尊重しようという態度を育む。

【成果・課題】

- 縦割り活動などの異年齢での活動においても、挨拶や児童間の声掛けが見られるようになった。
- 学級活動での良い行い等についての意図的な称賛は、機会による差が大きい。できるだけ得意分野を見つけ、意図的に声掛けをする必要がある。

提言 3	授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置づけること
-------------	---

【実践のねらい】
 国語科の校内研究の実践を通して、学習課題を明確にし、児童が進んで思いや考えを表現できる「課題設定の工夫」や「手立ての工夫」を行う。授業の終末には、自己評価や振り返りの時間を位置づけ、児童の表現意欲を高める。

- 【具体的な取組】**
- ①自ら課題をもち、計画的に学習を進めることができる授業実践
 - ・児童が興味をもって取り組むことができるような課題を、学習経験や体験を結びつけて設定する。
 - ②自己評価、相互評価の位置付け
 - ・課題に基づいて学習を振り返り、成就感や自己肯定感をもたせ学習意欲へつなげる。
 - ・ワークシートや学習形態を工夫し、目標が達成できたかを振り返らせる。

- 【成果・課題】**
- 授業実践では、学習課題を明確にすることで主体的に学習に臨むことができた。児童相互の評価や教師の励ましを行うことで、学習意欲へつながった。
 - 自己評価や相互評価の観点を明確にする工夫が必要である。

提言 4	自分の考えをノートにしっかりと書かせること
-------------	------------------------------

【実践のねらい】
 国語科の授業実践をとおして、「書くこと」を視点とした取組を行うことで、自分の考えを進んで表現する児童を育てる。

- 【具体的な取組】**
- ①ノートに思いや考えをまとめる場面での取組
 - ・自由に思考する時間を確保し、必要なキーワードや手順を示すことで自分の考えを整理して書く力を育む。
 - ②自己グループ活動や学習などの、考えを交流する場面を意図的に設定し、多様な考えに気付かせるように、自分の考えを見直したり深めたりできるようにする。

- 【成果・課題】**
- 自分の考えをノートに書くことで、自信をもって発言する児童が増えた。
 - 学習で身に付けた表現力を、他の教科でも生かしていくことができるように、継続して指導に当たる。
 - 教師による板書の仕方への工夫や、ノートの使い方の指導等に関する研修を重ねていきたい。

提言 5	家庭学習の時間を確保すること
-------------	-----------------------

【実践のねらい】
 家庭と連携しながら家庭学習の習慣化を図り、より良い学習習慣を身に付けさせる。

- 【具体的な取組】**
- ①家庭学習の習慣化を図るための、家庭学習カードの活用
 - ・低・中・高学年に毎週、音読や習熟プリントなどで、学習内容の習熟を行い、家庭学習カードの活用の様子を記録する。
 - ・家庭との連絡を取り、学習への取組の様子を把握しながら家庭学習を計画的に進めようとする。
 - ②「家庭学習の手引き」による保護者との連携
 - ・年度初めに保護者への周知を図るとともに、学級だより等で児童の取組について知らせようとしている。

- 【成果・課題】**
- 学年の実態に合わせた手立てを講じることで、家庭学習の習慣化が図られている児童が増え、学習の自主的な取り組みを進める上で、家庭の協力は不可欠であるが、児童が主体的に取組むよう手立てを更に工夫していきたい。
 - 家庭学習の自主的な取り組みを進める上で、家庭の協力は不可欠であるが、児童が主体的に取組むよう手立てを更に工夫していきたい。

【学校名】 南三陸町立 志津川小学校

提言 1

どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること

【実践のねらい】

- ・様々な日常場面での児童の言動を見取り、職員間の共通理解を図る（開発的・予防的な取組）。
- ・必要に応じて、個別に話す場や時間を設定し、職員間の共通理解を図る（問題解決的な取組）。

【具体的な取組】

- ・年度初めに、配慮や支援を必要とする児童の共通理解を図る場を設定する。
- ・いじめ等に関わるアンケート調査を実施。問題のある児童については、個別に追跡調査を進める。
- ・学習ノートや家庭学習カードの記述内容の把握、日記指導等を通して、児童の思いを捉える。
- ・あいさつ運動の実施（登校時、高学年が輪番で実施。あいさつのよい児童を全校に紹介）。

【成果・課題】

- 進んであいさつをしたり、自分の思いを話す、書くなどして表現したりすることができる児童が増えている。「学級づくり」「縦割り活動」としての成果も感じられる。
- 可能な範囲での数値化、客観的な見取りが必要である。

提言 2

子供をほめること、認めること

【実践のねらい】

- ・児童一人一人のよさや違いを認め合うことができるような集団づくりを目指す。
- ・児童の自己有用感を高めることができるようにする。

【具体的な取組】

- ・帰りの会において、その日の友達の頑張りを紹介し合う場を設定している。
- ・児童会が中心となり、昼の校内放送で「全校児童紹介」等のコーナーを設定している。

【成果・課題】

- 継続して実践していることで、児童間で「よさや違いの観点」がもてるようになってきている。
- 自己有用感の高まりまでには至っていない言動も見られるので、個別の支援を継続していく。

提言 3

授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること

【実践のねらい】

- ・算数科の授業改善を校内研究に位置付け、視点に対する手立てを検証している。
- 提言3に関連する視点「視点1：自力解決の手がかりを見いださせるための導入の工夫」
- 提言3に関連する視点「視点3：解決方法を見つめ直し、適切に自己評価をさせるための工夫」

【具体的な取組】

「授業のねらい」に関わる共通理解事項の一例

- ・「ねらいを達成した児童の具体の姿」を明確にすること。

- ・児童と一緒に、「やってみたい」「考えてみたい」が高まる課題をつくること。
- ・数、数図、図、数直線、グラフ等、複数の条件を関連付けた問題提示を行うこと。

「授業の終末」に関わる共通理解事項の一例

- ・終末の段階（まとめ、適用問題、振り返り等）は、10分を目安に行うこと。
- ・本時のキーワードや児童の言葉を活用して「課題に対応したまとめ」を作成し、板書すること。
- ・振り返りは、発達段階や実態に応じて、観点（何をどうしたらできたか等）を提示すること。

【成果・課題】

- 算数科においては、児童自身の中に「課題設定」や「振り返り」の観点が身に付いてきている。
- 算数科においては、解決段階に時間が掛かっている。適用問題の時間と質の確保を目指したい。

提言 4

自分の考えをノートにしっかり書かせること

【実践のねらい】

- ・算数科の授業改善を校内研究に位置付け、視点に対する手立てを検証している。
- 提言4に関連する視点「視点2：考えをノートに整理しながら、よりよい解決方法に気付かせるための工夫」

【具体的な取組】

- ・算数科における「ノートの書き方」を、発達段階や系統性を踏まえて全校で統一している。
- ・個に応じて、「学習カード」や「ヒント・キーワード」（書くための材料）を提示している。
- ・ペアやグループ活動を充実させ、思考と表現の補完（新たな気付きのメモ等）を図る。
- ・相手意識、目的意識を焦点化し、書く活動に取り組みさせるようにしている。
- ・必要に応じて、型の提示（書く順番、語彙、字数の設定等）をする。

【成果・課題】

- 書くことへの抵抗が少なくなり、書く量や速さの向上が見られるようになってきている。
- 児童の思考や表現を見取り、適切な個の支援を行うための教師側のスキルアップが必要である。

提言 5

家庭学習の時間を確保すること

【実践のねらい】

- ・学年間の系統性を図った家庭学習カードを作成、活用し、発達段階に応じた学習内容、時間等を踏まえた家庭学習に継続的に取り組むことができるようにする。

【具体的な取組】

- ・年度初めに、家庭学習の大切さと進め方についてまとめた「学びのすすめ」を各家庭に配付し、協力を呼び掛けた。また、家庭学習カードにも家庭からのコメント欄を設けている。
- ・発達段階に応じた時間や量を設定し、家庭学習カードに記入させている。3年生以上では自主学習も実施。帰りの会の際に、その日の予定を立てさせ、終了後は、自己評価を記入させている。

【成果・課題】

- 家庭学習の量や時間については、確保できている児童が多い。家庭環境にも配慮し、放課後のバス待ちの時間を活用させて取り組ませることもしている。
- 各学年の宿題の内容や3年生以上の「自主学習」については、自分の課題に積極的に向き合っていくことができるような「質」の向上を図っていきたい。

【学校名】 南三陸町立 戸倉小学校

提言 1

どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること

【実践のねらい】

児童一人一人が安心して学校生活を送れるようにすると共に、細かな様子の変化にも気付けるように普段からの対話を大切に、教師と児童の信頼関係作りに努める。

【具体的な取組】

毎朝のスクールバス登校の際に教師が出迎え、あいさつすることを継続している。また、下校の際にも全体でのあいさつを行い、教師が各学年の児童一人一人と目線を合わせることを心掛けながら見送りをしてきた。定期的に行っている生活アンケートの結果を踏まえ、児童理解を深めると共に生徒指導上の課題の把握に努めている。また、学級懇談会や教育相談の場でも保護者と情報を共有し、連携して日頃の教育活動に取り組んでいる。

【成果・課題】

- 全職員でアンケート結果を共有し、いじめの予防を含む積極的な生徒指導を実施できている。
- 今後も定期的にアンケートを実施するなど、積極的な生徒指導と児童理解に努める。

提言 2

子供をほめること、認めること

【実践のねらい】

満足感や達成感を味わわせることによって児童一人一人の自己有用感や学習意欲を高めると共に学級の望ましい人間関係を育成する。

【具体的な取組】

授業時間を中心に、給食や掃除の当番活動や休み時間、放課後の活動などの際にも、児童一人一人の様子を見取り、認め励ます言葉がけを継続してきた。特に新校舎に移転後は、のびのびと学校生活を送る児童の笑顔が数多く見られるようになっており、学校便りや学級便りを通して児童の活躍の様子を伝えてきた。学習発表会や音楽祭などの行事にも意欲的に取り組み、練習の成果を発揮して一体感のある素晴らしい演技やきれいな合唱奏を披露することができた。

【成果・課題】

- 児童の自己有用感を高め、学級の望ましい人間関係作りにつなげることができている。
- さらに志を高くもち、意欲を高めるための声掛けを継続していく。

提言 3

授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること

【実践のねらい】

校内研究の実践を中心に、普段の授業でもねらいを明確にし、適用問題に取り組みせたり、学習感想を書かせたりする授業展開を継続して実践することで、授業改善を図る。

【具体的な取組】

校内研究で取り組んでいる算数を中心として、戸倉小学校としての授業の約束を確認し、実践してきた。児童の準備物や発表の仕方、教師の発問や板書の仕方など、学校としての共通の約束を意識して学習させ、指導していくことで、新年度に担任が替わっても普段通りのペースで集中して学習に取り組むことができると考える。また、観点を明確にして感想を書かせる経験を通して書くことに慣れ、短時間で振り返ることができるようになってきた。

【成果・課題】

- 各担当者が単位時間の授業の質を高める意識を高くもち、日々の実践に取り組んでいる。
- さらに主体的な学びにつなげるための課題提示の仕方や発問の工夫などに取り組んでいく。

提言 4

自分の考えをノートにしっかり書かせること

【実践のねらい】

文章から読み取ったことや課題解決の際にどのような方法で考えたかなど、言葉や絵や図などに表すことで思考の過程を整理させ、さらに理解を深めさせる。

【具体的な取組】

国語では、登場人物の心情の変化が分かる言葉に着目して書かせたり、算数では題意に沿って式や絵や図に表してから書かせたりする授業展開を工夫してきた。学年によって書く分量や内容に差はあるが、できるだけ時間を確保し自分の言葉で表現できる児童が増えてきている。集団解決の場面で児童相互の考えを練り合わせ、よりよい考えや解き方を見付けさせるための言語活動の工夫について、さらに研究を進めていく予定である。

【成果・課題】

- 自分の考えを言葉や絵や図などで表現できる児童が増えてきた。
- 自力解決から集団解決の場面で、よりよい考えに気付かせる言語活動の工夫を図っていく。

提言 5

家庭学習の時間を確保すること

【実践のねらい】

家庭学習と授業との関連を図り、主体的に学ぶ姿勢と共に、望ましい生活リズムや学習習慣を身に付けさせる。

【具体的な取組】

「南三陸町の小学生のための家庭学習の手引き」を活用して家庭学習に取り組ませたり、毎日「生活習慣チェックカード」に記入して望ましい生活リズムや学習習慣について振り返らせたりしてきた。学習時間として「学年×10分～15分」を目標に設定し、学年の発達段階に応じて漢字や計算練習をしたり、日記や百人一首に取り組んだり、理科や社会の復習を行ったりするなど、主体的に学ぼうとする態度が見られるようになってきた。

【成果・課題】

- 時間や内容など具体的な目標をもち、家庭学習に意欲的に取り組む児童が増えてきた。
- さらに授業との関連を図り、質の高い家庭学習につなげるように声掛けしていく。

【学校名】 南三陸町立 入谷小学校

提言 1	どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること
-------------	---

【実践のねらい】

全職員で子供の声に耳を傾け、児童理解に努める。

【具体的な取組】

- ・「はきはき」とした受け答え、「てきぱき」と行動、「にこにこ」と笑顔であいさつ、を全校で合言葉にして取り組んでいる。
- ・宿題の自学ノートや家庭学習カードにコメントを入れて、こまめに励ましたりアドバイスをしたりする。
- ・毎月「学校生活アンケート」を実施し、安心して学校生活を過ごすことができるように児童理解に努めている。
- ・スクールカウンセラーと連携し、児童の心の変化に素早く対応するようにしている。

【成果・課題】

- 子供たちが「はきはき」「てきぱき」「にこにこ」の合言葉を意識して行動できるようになってきた。今後も継続して指導することが大切である。
- 宿題への教師のコメントが子供の励みになっていると感じている。
- スクールカウンセラーの来校日は限られている。まずは全職員での共通理解・共通行動が必要である。

提言 2	子供をほめること、認めること
-------------	-----------------------

【実践のねらい】

子供をほめ、認める機会を増やすことで自己肯定感と自尊感情を高める。

【具体的な取組】

- ・朝の会や帰りの会で互いのよいところやがんばりを発表し合い、認め合う場をもつ。
- ・授業における取組や生活の中の言動で「いいね」を拾って声にするように心がけている。そのために日常の様子を十分に観察するようにしている。
- ・家庭にも子供のよさが伝わるようにしている（懇談会、学年通信等で）。その上で、具体的にほめてほしい観点を示している。

【成果・課題】

- 子供同士が互いのよさを知り、尊重し合って生活している姿が見える。
- 1つほめると有頂天になり羽目を外しすぎる子供がいて、ときに学級の雰囲気か乱れてしまうこともある。

提言 3	授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること
-------------	---

【実践のねらい】

授業のねらいを明確にし、1時間ごとの授業を充実させることで、基礎的・基本的な内容の定着を図る。

<p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童に対して、「今日のめあて」を意識させながら授業を進めるようにしている。 ・課題解決型の学習スタイルの定着を図っている。見通しをしっかりとらせ、本時のねらいが達成できたか、児童とともに振り返るようにしている。(学習感想や適用問題については、ねらいに沿って使い分けをしている。)
<p>【成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業研究ではもちろん、職員室や教室でも職員間で気軽に教材研究の話題が出され、それが充実した授業を行う上でのヒントとなることがある。 ○授業のねらいを明確にすると授業の展開もスムーズになり、適用問題に取り組みせたり授業感想を書かせたりする余裕をもてるようになった。 ●「今日のめあて」に対して、振り返りの時間をしっかりと確保できないことがある。

提言 4	自分の考えをノートにしっかり書かせること
<p>【実践のねらい】</p> <p>書く活動を充実させ、思考力や表現力を育てる。</p>	
<p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数において、ノートと同じマス目の線を黒板に引き、黒板の文字や計算を正しくノートに書くように指導している。 ・国語算数ともに児童のノートに合わせた板書を意識し、さらに机間指導で正しくノートに書くことができているかチェックしている。 ・「丁寧に書く」「速く書く」の使い分けができるように指導している。 ・考えや感想の交流をする際もお互いの考えをお互いのノートに書かせるようにしている。 	
<p>【成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ノート指導を継続することで思考が整理され、正しい計算の仕方が身に付いてきた。 ○同じ形式で板書することで、声かけや指示がなくても、進んでノートをとることができる児童が増えてきた。 ○ノートをとる速さが速くなったぶん、考える時間やお互いの考えを交流する時間が十分にとれるようになった。 	

提言 5	家庭学習の時間を確保すること
<p>【実践のねらい】</p> <p>学年や児童の実態に合った家庭学習の課題を与え、学習の基礎基本の定着を図るとともに、家庭での学習習慣の確立を目指す。</p>	
<p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習カードを活用し、家庭との連携を図りながら、家庭学習の時間の確保や学習習慣の確立を目指している。 ・学年×10分の取組を継続している。 ・学習メニューの提示、よい自主学習の紹介をしている。 ・学級懇談や教育相談などの機会を活用して、家庭学習の時間を十分に確保することができるように保護者へ呼びかける。 	
<p>【成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○どの児童も毎日確実に家庭学習に取り組む姿勢が見られるようになった。 ○意欲や目的をもって取り組む姿勢が見られるようになった。 	

【学校名】 南三陸町立 伊里前小学校

提言 1

どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること

【実践のねらい】

- ・子供たちと良好な関係を構築するとともに、授業の中で、安心して自分の考えを発表できる環境をつくる。

【具体的な取組】

- ・ちょっとした時間でも（スクールバスの見送り等）、児童に声を掛ける。（特に、最近落ち着いてきた子、頑張っている子、様子が気になる子）
- ・自発的発表の少ない児童に声掛けをし、発表の準備をさせる。また、自分の考えを書くことが進まない児童には何が原因なのかを聞き、理解度に合わせて支援する。
- ・月に一回程度アンケートを取り、最近の出来事や友達、学校での生活を知り、それをもとに積極的に会話をする。
- ・クラス全員が授業の中で発言できるよう、1日1回以上は発表の場を設ける。

【成果・課題】

- 会話をすることで児童の喜ぶ顔が見られるようになった。また、悩みを話してくれるようになり、日々の成長の様子がみられる。
- 声掛けにより、授業の中で発表する児童が増えた。
- 多くの児童と時間を取りたいが、授業以外の場で、全員と会話をすることが難しい日もある。

提言 2

子供をほめること、認めること

【実践のねらい】

- ・褒め、認めることで、子供たちの成長を促し、また、安心できる環境をつくることで自信をもたせ、学習への好循環を生み出す。

【具体的な取組】

- ・児童の具体的な取組やその内面（心掛けや心構え、気持ちなど）を本人だけでなく、全体の前で褒めたり、みんなで認めたりする。
- ・係や掃除、委員会など自分の役割を果たしたことを、児童同士で認め合ったり、頑張りを褒め合える場を設け、賞賛する。
- ・授業中、ペアやグループ、また全体で考えを交流する場を設け、友達の考えから、よい考えだと思ふところを発表させみんなで認める。また、友達のよい考えを見つけた児童も褒め、違った考えの中にもよい考えがあることに気付かせる。



【成果・課題】

- 褒められることで児童は自信を付け、次の取組が意欲的になる。また、自分が周りから認められたことで、自分も友達のよいところを見付けたり、認めようとするようになる。
- 次につなげたいが、単発になってしまうところがある。
- 褒めたいと思っけていても、厳しい言葉を言ってしまうときもある。

提言 3

授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること

【実践のねらい】

- ・ゴール地点を明確にすることで、学習意欲を向上させ、また学習内容をしっかり定着させることとその把握をする。

【具体的な取組】

- ・課題（めあて）を提示し、算数では必ず適用問題を解かせるようにしている。また、振り返りカードを使用し、毎時間分かったこと、気付いたこと、感想を書くようにしている。
- ・適用問題を精選し、理解の早い児童には発展問題にも取り組ませる。
- ・授業の終末に適用問題や小テストを解かせる、また授業感想を書かせる時間を確保し位置付けるために、1単位時間を逆算して授業計画を立てる。
- ・授業感想の時間が取れないときには、顔を描かせ、表情で授業の理解度を表現させる。

【成果・課題】

- 1単元で1枚の振り返りカードにすることで、どのようなことが分かっていったのか分かるようになっていく。
- 振り返りカードに適用問題や感想を書かせたことで、導入から展開まで急いでやることになってしまった。
- 全ての授業で終末の時間確保が難しい。

提言 4

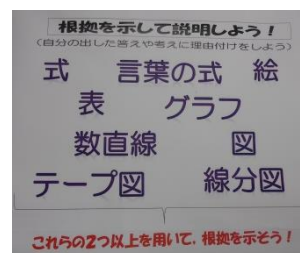
自分の考えをノートにしっかり書かせること

【実践のねらい】

- ・課題に対しての考えを書くことで、学習への参加意識を高め、自分の考えを明確にすることで自信をもって発表できるようにする。

【具体的な取組】

- ・課題解決の際に、自分の考えをしっかりとノートに書かせ、ペアやグループでの交流での発表をスムーズにさせた。また、友達の考えの中で参考になった考えもノートに書かせ、自分の考えとの違いや同じ点に気付かせるよう促した。（青色のペンを使い、自分の考えとの違いが一目で分かるようにした）
- ・課題解決の見通しをもたせるため、悩んでいる児童には、書き出しの例を示す。
- ・根拠を示して考えをまとめられるよう、根拠の提示の仕方の例をいくつか挙げて児童が書きやすいようにした。
- ・自分の考えをノートに書かせることを盛り込んだ指導計画を立案し実施する。



【成果・課題】

- ノートに考えをまとめたことで、ペアやグループでの学習の際、意見交換がしやすくなった。また、学習形態も含めて参加意識が高まった。
- 見通しのもたせ方など工夫しないと、自分の考えを書き出せない児童もいた。

提言 5

家庭学習の時間を確保すること

【実践のねらい】

- ・学習内容の定着と学習習慣の定着を図る。

【具体的な取組】

- ・学習カードを用いて、毎日の家庭学習（音読、漢字、算数スキル）を促し、保護者協力のもと全員が取り組んでいる。
- ・研修便りや学級便りで学級の家庭学習への取組状況、家庭学習の必要性を知らせると共に、協力依頼、保護者への啓蒙を促している。
- ・自学ノートコーナーを設け、上手にまとまっている児童や、頑張っている児童のノートを紹介している。

【成果・課題】

- ケースバイケースであるが、学習習慣の定着が見られ、学習意欲の向上が学習内容の定着につながっている。また、保護者との信頼関係の構築につながっている。
- 学習習慣の定着に至らず、継続的な支援が必要な場合もある。
- 宿題だけで終わらせてしまい、短時間の家庭学習になってしまっている児童もいる。

【学校名】 南三陸町立 名足小学校

提言 1

どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること

【実践のねらい】

少人数の学校であることを生かし、全職員が協力して児童理解に努め、児童との好ましい人間関係を築く。

【具体的な取組】

- ・スクールバスの出迎えや見送りの際に、全職員で全校児童への声掛けを行う。
- ・毎週木曜日に行う打ち合わせと職員会議の中での生徒指導全体会において、生徒指導について協議し、問題行動や支援が必要な児童についての共通理解を行う。
- ・いじめに関するアンケートを毎月実施し、6月と10月、2月にはさらに詳しい生活アンケートを実施したりすると共に、それに基づく教育相談を行ったりする。
- ・3～6年の理科と5、6年の音楽を担当外の教科担任が受け持ったり、業前活動としての国語サポートタイム、算数サポートタイムをTTで行ったりするなど、多くの職員で児童とかわるようになるようにする。

【成果・課題】

- 担任だけでなく、全職員で児童理解を進め、常に情報交換をしながら児童の指導に当たることができている。
- 校務の忙しさ、スクールバスの時間が決まっていることなどから、学級担任がじっくり児童とふれあったり個別指導をしたりする時間が不足している。

提言 2

子供をほめること、認めること

【実践のねらい】

一人一人のよさを教師がほめるとともに、児童間でも認め合う場を設け、自己肯定感を高める。

【具体的な取組】

- ・机間指導でそれぞれの考えのよさを認め、集団解決の場面では意図的に指名をして、全員の活躍の場を確保する。
- ・学習感想では互いのよさについての記述も促し、児童間でも認め合えるようにする。
- ・担任が児童のノートや作品に、児童の頑張りを認めるコメントを書くようにする。
- ・朝の会や帰りの会で、友達のよさを発表させたり、担任が善行を紹介したりする。



【成果・課題】

- 授業で、自分の考えを自信をもって発表する児童が増えている。
- 考えを練り合う場面で、一人一人の意見をどのように生かしていくのか更に検討が必要である。

提言 3

授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること

【実践のねらい】

学習過程の中に「見通す」「振り返る」段階を位置づけ、児童自身が「分かった」と言える授業を目指す。

【具体的な取組】

- ・「問題」と「課題」をしっかりと区別させる。「課題」は板書、ノート共に赤線で囲み、本時のねらいを導入でしっかり理解させる。
- ・「振り返る」段階では、課題に対応した「まとめ」を行い、課題と同様に赤線で囲ませる。
- ・学年に応じて学習感想や適用問題の取り組み方を工夫する。

【成果・課題】

- ノートの書き方を指導する中で、「課題」と「まとめ」が直結して意識されるようになった。
- 学習感想を書くことにも慣れてきているが、毎時間というわけにはいかず、どこでどのようにといった検討が必要だと考える。

提言 4

自分の考えをノートにしっかり書かせること

【実践のねらい】

学校全体でノートの書き方を統一し、次の学年になっても、同様に活用できるノートづくりができるようにする。

【具体的な取組】

- ・「名足小学校のノートの書き方」を校内研修で協議し、全校で取り組む。
- ・見やすく、自分の考えを工夫して表現しているノートを「ベストノート」として各学年で選び、コピーして昇降口前に掲示する。

【成果・課題】

- 学んだことや考えの深まりが見えるノートを目指して、児童が丁寧にノートに書くようになってきた。
- 全学年のノートをベストノートコーナーで見ることができ、下学年が上学年のノートを手本として参考している。
- ノートに書いた自分の考えを発表させるのに、時間が掛かるので、各学年で方法を検討している。



提言 5

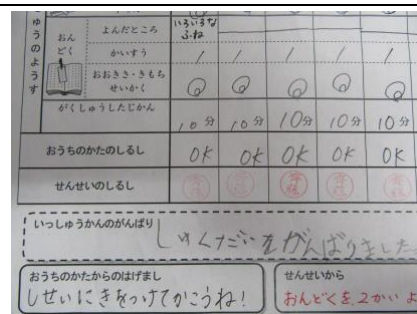
家庭学習の時間を確保すること

【実践のねらい】

家庭での学習を習慣づけ、授業で学んだことがしっかり定着できるようにする。

【具体的な取組】

- ・南三陸町で作った「家庭学習の手引き」を全学年に配付して、家庭の協力を得る。
- ・家庭学習カードは全校で統一し、生活面と学習面を網羅した一週間ごとのカードとする。日曜日には児童に振り返りを書かせる。また、保護者と担任から励ましの言葉を書く欄を設け、褒めて意欲を高めるようにする。
- ・漢字練習や計算練習だけでなく、授業と結び付けた課題を与えたり、文章題や長文読解など児童の苦手な問題に取り組ませたりする。



【成果・課題】

- 多くの児童は、目標としている時間を意識して、家庭学習に取り組むことができている。
- 家庭での時間の使い方（テレビ視聴やゲームなど）に問題がないか、学級懇談などで話題にして、改善策を講じていきたい。

【学校名】 気仙沼市立 気仙沼中学校

提言 1

どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること

【実践のねらい】

学級の生徒に積極的に声掛けをすることで、生徒の変化に気付くようにする。

【具体的な取組】

- ・学級において、1日に必ず全員に声掛けやあいさつをするようにしている。
- ・生徒の表情や行動を観察し、変化が見られる場合は、積極的に声掛けをする。

【成果・課題】

- 学級の生徒とのレポートづくりができた。
- 担任から話し掛けているうちに、生徒からも話し掛けてくるようになり、学級経営がしやすくなった。

提言 2

子供をほめること、認めること

【実践のねらい】

授業中に一人一人に声掛けをし、成果を認める。

【具体的な取組】

- ・授業で問題を解くように指示した後、机間指導をしながら全員分の丸付けを行う。

【成果・課題】

- 問題に対して解けているか確認できる。
- 一人一人に丸付けをしながら声掛けを行うことで、成果を認めることができた。
- 全員の丸付けに時間がかかる。

提言 3

授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること

【実践のねらい】

授業のねらいを板書すると共に、ねらいに到達した具体的な姿を明確にする。
基礎学力を定着させ、書く力を育成する。

【具体的な取組】

- ・課題提示の際に、「今日の授業では、これができるようになれば◎です」のように、本時のねらいを明確に伝える。
- ・終末時に本時の授業内容の小テスト（確認テスト）を実施する。
- ・終末時に本時の授業内容を文章でまとめさせる。

【成果・課題】

- ねらいに到達した生徒の姿を具体的に示すことにより、本時の授業で何ができるようになるれば良いかイメージさせることができた。
- 確認テストにより、生徒に本時の授業の要点を確認させることができた。
- 文章で記述することが苦手な生徒への具体的な手だてを工夫する必要がある。

提言 4**自分の考えをノートにしっかり書かせること****【実践のねらい】**

自分の考えを自分の言葉で説明できるようにするため、ノートに書かせる。

【具体的な取組】

- ・ノートの右端に縦線を引かせ、大事なところやポイントになることをまとめさせる。
- ・既習した事項を活用して、自分の考えを書かせる。

【成果・課題】

- 教師が話した内容で大切だと思ったことを、ノートの右端の蘭にメモをとるようになった。
- ノートづくりに個人差が大きい。

提言 5**家庭学習の時間を確保すること****【実践のねらい】**

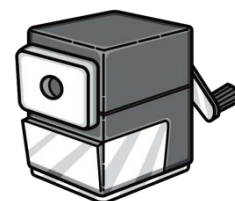
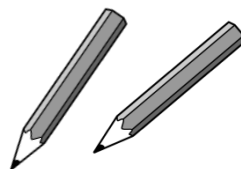
- ・週末課題（週末に課す課題）を毎週提示し、既習事項の定着を図る。
- ・生徒の実態に合わせた家庭学習課題を提示する。

【具体的な取組】

- ・週末課題を毎週提示し、週明けに回収する。教師が理解度を確認すると共に既習事項の定着を図る。
- ・生徒の習熟度に応じた課題を提示し、家庭学習ノートに行うように指示する。

【成果・課題】

- 週末課題（数学等）を必ずやってくるように指示することで、家庭学習の習慣が身に付いている。
- 生徒の習熟度に応じた課題を提示し、理解できるようにすることで、個々の学力を高めることにつながる。



【学校名】 気仙沼市立 鹿折中学校

提言 1	どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること
-------------	---

【実践のねらい】

・日々の観察や校内外の各種アンケートなどを活用し、学校生活での不安や悩みなどを確認し、情報の共有化を図り、生徒理解に努める。

【具体的な取組】

- ・学年担当や生徒指導部、職員会議などで情報の共有化を図り、生徒全員が落ち着いて学校生活を送れるよう、全職員での見守りや声掛けなどを積極的に行う。
- ・アンケート結果から、気になる回答をした生徒に対して、その内容についてできるだけ早い段階で本人から確認するなどの作業を丁寧に行っている。

【成果・課題】

- 学年の打合せや生徒指導部会、職員会議を通しての情報の共有化による生徒理解はもちろんであるが、業間や昼休みなどの短時間の中でも、職員間で気になる生徒の様子などについて情報交換する様子が見られるようになってきた。
- 学習面はもとより、生活面や家庭生活などで支援が必要な生徒に、個に応じた指導内容をさらに精査することで、その内容を検討していかなければならない。

提言 2	子供をほめること、認めること
-------------	-----------------------

【実践のねらい】

・日々の学校生活全般で、生徒の言動に着目し、小さなことでも気付き、ほめるなどして、生徒の自己肯定感や自尊感情、自己有用感の高揚に努める。

【具体的な取組】

- ・係や当番、委員会、部活動などその活動の節目で取組を振り返り、自他の頑張りを認め合うなどしている。
- ・学習面では指導過程の中に、他と関わる活動を意図的に設定することで、生徒が互いに認め合える場面を創り出している。また、生徒同士では気付かない点については、指導者からの称賛も加えている。

【成果・課題】

- 諸活動の中、その言動に目を向けて、良いところなどを見出すことができている。また、生徒同士が互いの良さに気付くことができるようになってきている。
- 生徒の心の状態の把握と理解にさらに努めることで、より自己肯定感・自尊感情などを高めていく必要がある。

提言 3	授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること
-------------	---

【実践のねらい】

・授業終結時に、適用問題や小テストを行ったり、感想をまとめたりすることにより、ねらいが達成できたかどうかを評価させ、授業を振り返らせた。

【具体的な取組】

- ・授業のねらいを明確にすることで、終結時の生徒の姿を具体的にイメージし、授業を行っている。
- ・終結時の適用問題や小テストを行ったり、感想をまとめたりすることにより、生徒の思考を整理させ、授業を振り返らせている。

【成果・課題】

- 適用問題や小テストを行ったり、感想をまとめたりするなどの作業により、学習内容の理解や表現力が高まりつつある。
- 一単位時間の授業のねらいをしっかりと設定するためには、教師の教材研究や授業展開の工夫なども重要であるので、今後も検討していきたい。

提言 4**自分の考えをノートにしっかり書かせること****【実践のねらい】**

- ・自らの考えを級友などに発表することは好むものの、書くことに対しては多くの生徒が苦手意識をもっているので、その思いを変えていく。

【具体的な取組】

- ・年度当初の授業開きなどで、ノートづくりの指導を行っている。
- ・生徒それぞれが考えをまとめる際に、書く作業をするための時間や分量を指定している。
- ・スキル定着のために、文例を提示するなど生徒にヒントを与える工夫をしている。

【成果・課題】

- 生徒がノート作りを工夫するようになってきた。
- 自分の考えをまとめる作業に、難しさを感じなくなり、自分の思いを表現するようになってきた。
- 書くことへの意識やスキルの差があり、その差をうめる方策を考えていきたい。

提言 5**家庭学習の時間を確保すること****【実践のねらい】**

- ・校内外の各種アンケートの結果から、本校生徒の家庭学習習慣があまり定着していない実態がうかがえるので、家庭学習の取り組む意識を変え、意識を高めていく。

【具体的な取組】

- ・『ジャンプ』（学習の手引き）で家庭学習の取組方などを指導している。
- ・定期テスト前や長期休業時、定期的に学習相談を実施している。
- ・各教科で、家庭学習習慣の醸成を意識したワークシートを作成している。
- ・ステップノート（家庭学習）の毎日の提出とその活用を促している。

【成果・課題】

- 課題意識をもって、学習相談に参加する生徒が見られるようになった。
- ステップノート提出率は以前より上がってきたが、さらに家庭学習習慣化を目指させたい。また、ステップノートの提出チェックやノートの活用のはたらきかけなどについて、学級担任だけでなく、他教員のバックアップなども試みたい。

【学校名】 気仙沼市立 松岩中学校

提言 1

どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること

【実践のねらい】

生徒の実態把握に努め、学習基盤や学習環境の整備を進め、居心地の良い学級づくりを目指す。

【具体的な取組】

- ・「授業の約束」の見直しと徹底を図るため、全職員で取り組む。
- ・「学習実態調査」を実施し、家庭学習の妨げの原因を探る。
- ・分からないところを自分から質問できるようなグループ学習を推進する。

<授業の約束>

- 1 授業の準備物を机に出し、座っていきましょう。
- 2 身なりを整えておきましょう。
- 3 終始のあいさつはしっかりしましょう。
 - ①「起立」(速やかに席の右に立とう)
 - ②「注目」(先生を注目しよう)
 - ③「お願いします」「ありがとうございました」(元気よくあいさつ、しっかり礼をしよう)
 - ④「着席」(速やかに座ろう)
- 4 発表の時は挙手し、指名されたら 「はい」と返事をして席の右側にたち、「～です」までしっかり答えよう。
- 5 授業中は椅子に深く腰掛け、姿勢を正して話し手に注目して聞こう

【成果・課題】

- どの授業でもあいさつを大切にしようとする意識が以前より高まった。また、授業に入る切り替えがはっきりするなど、授業のメリハリが増してきた。
- 指導していて、声をかけると質問してくる生徒が増えた。
- 生徒自身が自分から質問できる雰囲気づくりをさらに進めていく必要がある。

提言 2

子供をほめること、認めること

【実践のねらい】

意図的指名の発言から、生徒の考えを引き出し授業に活用することで自己有用感を高める指導を目指す。

【具体的な取組】

- ・授業や諸活動で自分の考えを書く場面をつくり、その考えをまわりに伝える場面も設定する。
- ・授業の中で生徒の発言や意見を活用して授業を進める場面を多くする。

【成果・課題】

- 指名によって自分の思いや考えをしっかりと発言する生徒が増えた。
- 机間指導の中で生徒との会話が増えた。
- ノートに丸を付いたり、コメントしたりして、具体的にほめる手立てを続ける必要がある。できたところやわかったことを確実に認める場の設定も必要である。

提言 3

授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること

【実践のねらい】

授業のねらいを導入の段階で明確に示すことで、生徒の学習意欲を持続させるきっかけをつくる。また、授業の終わりに振り返りに時間をとることで、何が分かったのか生徒自身が確認できる流れを習慣化する。

<p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のめあてを黒板などに明記する。 ・授業の終末に振り返りの時間を設定して、ノートに自分のことばで書かせるようにする。 ・学習計画表を利用してめあてや振り返りを効率よく行う。 	<p>授業のススメ</p> <ul style="list-style-type: none"> □授業のルールは徹底していますか 規範意識 土台 □始まりのあいさつは元気に 環境整備 土台 □ねらいを明記していますか 授業の基礎 基本 □振り返りを確実に going 行っていますか 学習の定着 基本 □話し合う場面 ・・・・視点1：グループ学習の活用 □聞く場面 どう聞かせ・・・・視点2：主体的な学びの礎 □書く場面 どう書かせ □考える場面 どう考えさせ □話す場面 どう話させるか
<p>【成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○めあてをノートに書く習慣ができた。自分のことばで振り返りを書ける生徒が増えた。 ●すべての教科でめあてをどのように明示するか検討していく必要がある。 ●学習計画表のファイリング方法を改善する必要がある。 	

<p>提言 4</p>	<p>自分の考えをノートにしっかり書かせること</p>
<p>【実践のねらい】</p> <p>授業の中でメモをとる習慣を身に付けさせる。</p>	
<p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートの両端に線を引く、その欄に説明の要点、疑問、考えなどをメモできるようにする。 ・疑問に思ったことや他の人の意見や考えなどをノートにメモするように声掛けを続ける。 ・自分の思いや考えをノートにしっかり書かせる時間を確保する。 	
<p>【成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○以前よりメモをとる生徒が増えた。また、メモを見ながら質問する生徒も出てきた。 ●まわりに耳を傾けることがメモを取りやすくするという声掛けを続ける必要がある。 	

<p>提言 5</p>	<p>家庭学習の時間を確保すること</p>
<p>【実践のねらい】</p> <p>毎日少しでも継続して家庭学習を行う習慣を身に付けさせる。</p>	
<p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週末課題など授業と連動した宿題を提示するようにする。 ・「すいすいスタディ」への継続した取組で、基礎・基本を中心とした家庭学習の定着を促す。 	
<p>【成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○予習する生徒が増え、授業に入り込みやすくなった生徒が増えた。 ○自主学習ノートの提出率が上がった。 ●小テスト形式で行う「すいすいスタディ」は、合格率をクラス毎に出し、再テストも行っているため、合格できない生徒には強いストレスになっている面もある。 ●自主学習ノートの点検が学級担任まかせになっているので、学年主任や副担任も参加し、各学年担当者が全員で関わるなど分担する方法を検討する必要がある。また、生徒へのコメントについて、校内研修などで有効なコメントや記述について話し合いたい。 	

【学校名】 気仙沼市立 階上中学校

提言 1

どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること

【実践のねらい】

どの生徒にもあいさつを始め積極的な声掛けをして、良好な人間関係づくりに努める。

【具体的な取組】

本校の良い伝統としているあいさつを「明るく、元気に、自分から」を教師も生徒も心掛けるとともに、「ありがとう」「お願いします」などの人間関係づくりの土台となる声掛けを積極的に行う。

【成果・課題】

- 一声掛けることで人間関係はより良好なものとなった。
- 生徒は良いあいさつが自分たちの学校の誇りであることを実感し、愛校心が高まっているのが感じられた。
- 全ての生徒が明るく、元気に、自分からあいさつができるように、根気よく継続していくことが必要である。

提言 2

子供をほめること、認めること

【実践のねらい】

生徒の良い面を認め、生徒が自分の良さをさらに発揮しようとする意欲を高めさせる。

【具体的な取組】

授業中に生徒の良い気付きや発言に敏感に反応して、学級内で共有するようにしたり、授業中に生徒が書いたワークシートに賞賛のコメントを付けて返却したりする。

【成果・課題】

- 自分の頑張りが教師や級友に認められていることを知り、素直にうれしく感じて今後も継続しよう、もっと頑張ろうという意欲が見られた。
- どの生徒も同じようにほめられる機会が与えられるように、教師が生徒の良さを見付ける目をもたなければならない。

提言 3

授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること

【実践のねらい】

授業において生徒の実態に即した課題提示と振り返りの場を工夫することにより、基礎・基本を身に付けた生徒の育成を目指す。

【具体的な取組】

レディネスやアンケート調査などで生徒の実態把握を行い、単元の目標達成に向けて、本時における適切な課題提示を行う。また、終結時には、小テストを行ったり、ペアで学習内容について確認し合わせたり、感想を書かせたりして振り返りを行わせる。

【成果・課題】

- 「課題提示と振り返りの工夫について」を本校の研究の副題とした。全校で意識的に取り組むことで、生徒にも定着し、教師側にとっても提示や振り返りの方法が増えるなど改善が見られた。
- 振り返りが、単元の目標と照らし合わせるものとなっているのか、また、生徒の何ができて何ができなかったのかを明確にしているかなどの改善が必要である。

提言 4**自分の考えをノートにしっかり書かせること****【実践のねらい】**

話し合い活動で自分の意見をもって臨んだり、考えたことや学んだことをまとめたりできるようにさせる。

【具体的な取組】

各教科等の話し合い活動では、付箋紙などに自分の意見を書かせ、一人一人が自分の意見や考えを出し合う機会を設ける。また、授業の終結時には、付箋紙に書かれた班員のアイデアをもとに本時学んだことや考えたことをノートにまとめさせる。

【成果・課題】

- 全員に自分の意見をもって話し合い活動に参加させることができた。
- 終結時に書かせることで、学習内容が深まったり、その日の家庭学習や次時の学習内容にもつながりをもたせたりすることができた。
- 書く内容などの個人差は大きく、個別指導の時間をきちんと確保し、書き方の具体例を示すなどの必要がある。

提言 5**家庭学習の時間を確保すること****【実践のねらい】**

家庭学習の目標や毎日の計画を立てさせ、その計画に従って自ら学習させることにより、意欲的な取組を促す。また、家庭と学校とが連携をとることにより、生徒の学習習慣の確立を図る。

【具体的な取組】

1週間の家庭学習の内容と時間を「学習プラン表」に記入させ、毎日学級担任が前日の家庭学習の状況を確認する。また、生徒は週末に、その週の学習を振り返り、感想や反省などを書く。さらに、家庭にも協力をお願いし、子どもの家庭学習の様子についてのコメントを記入してもらう。

【成果・課題】

- 定期的に学習時間を調査分析し、生徒にも知らせることで、学習時間が伸びてきている。
- 身に付く家庭学習の内容になっているのかという検討が必要である。また、自主性は大切ではあるが、宿題の内容を吟味して量を増やすことを考えている。

【学校名】 気仙沼市立 大島中学校

提言 1

どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること

【実践のねらい】

1 全職員が生徒一人一人の情報を共有することにより、生徒理解を深める。

【具体的な取組】

- ① Q-Uを実施し、その結果に基づき、座席配置や班構成に配慮する。
- ② 「メンタルヘルスアンケート」と「学校生活アンケート」を継続して実施し、結果に応じて二者面談を行う。
- ③ 全校体制での行事や部活動、ランチルームでの給食を通して、全職員が全ての生徒と関わる機会を設定する。

【成果・課題】

○生徒の様子やアンケートの結果を全職員で共有することにより、生徒の情報交換が密にできている。また、生徒も気軽に相談できるような雰囲気ができてきた。

提言 2

子供をほめること、認めること

【実践のねらい】

1 学校生活全体を通して生徒をほめたり、認めたりする場面を増やすことにより、生徒に自己肯定感や学級・学校への所属感をもたせる。

【具体的な取組】

- ① 生徒主体の学級づくりをするため、「学級プログラム委員会」を組織する。
- ② 学級や生徒会の活動・行事などにおいて、各自の果たすべき役割を明確にする。
- ③ 授業や学校生活での頑張りについて、学級通信等で各家庭に知らせる。

【成果・課題】

- 生徒一人一人に役割や活躍の場を与えることで、学級や学校への所属感が高まっている様子が見られる。
- 生徒の頑張りや学校と家庭で共有することにより、保護者と学校の関係が密になり、手厚い協力が得られている。
- 教師が生徒をほめたり、認めたりする場面は確保されているが、生徒同士が認め合う場面が十分でない。

提言 3

授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること

【実践のねらい】

- 1 導入時に明確にねらいを提示することにより、生徒に本時の授業の見通しをもたせる。
- 2 振り返りの時間を確保することで、授業内容の理解度を生徒と教師で確認する。

【具体的な取組】

- ① 全教科で導入時に本時のねらいを板書することを徹底する。
- ② 本時の授業内容の理解度を確認するため、終末に授業感想を書かせたり、適用問題に取り組ませたりする。

【成果・課題】

- ねらいの提示と振り返りの時間の設定により、学習アンケートで「授業内容が理解できたと実感できる」と回答する生徒が増加した。
- ねらいを明確にした授業づくりを進めたことで、単元構想や評価規準の見直しにつながった。また、昨年度より「5つの提言実践事項」を各教科の年間指導計画に朱書きし、次年度の年間指導計画作成に生かしている。
- 授業内容によっては、終末の振り返りの時間を確保することが難しい場合がある。

表1 社会科年間指導計画の一部

<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界の地域区分や国境について追究するために、地球儀や地図帳を適切に活用させる。(書) ○ 主として集団や社会とのかかわりに関すること。(道) 	<p>【提言3】 六大陸と三大洋、緯度と経度について確認テストを行う。 <i>9割の生徒が、正しく答えていた。</i></p>
---	---

提言 4

自分の考えをノートにしっかり書かせること

【実践のねらい】

- 1 「書く」活動を通して、生徒が自分の考えを整理し、考えを振り返ることにより、思考力や表現力を高める。

【具体的な取組】

- ① ノートに自分の考えと教師の説明や友人の発言をメモする欄を設ける。
- ② 予習・授業・復習の流れが見開きで分かるノート作りを徹底させる。
- ③ 定期的にノート点検を実施し、教師がコメントを加えたり、良いノートを学級全体で紹介したりする。

【成果・課題】

- メモをとらせるようにしたことで、教師の説明や友人の発言を真剣に聞く様子が見られるようになった。
- ノートにまとめた自分の考えを基に、積極的に話し合い活動に取り組ませる必要がある。
- 教科の特性を生かしたノート作りを各教科で徹底させていく必要がある。

提言 5

家庭学習の時間を確保すること

【実践のねらい】

- 1 学習時間を確保するために、普段の生活習慣を見直させるなど、家庭の協力を得る。
- 2 学校でも生徒が自主的に学習できる場を提供する。

【具体的な取組】

- ① 各教科の効果的な家庭学習方法を「家庭学習の手引き」にまとめ、生徒に配付する。家庭には、学年懇談の際に大島中独自の「家庭学習のススメ」を配付し、生徒が家庭学習に取り組みやすい環境づくりへの協力を求める。
- ② 生徒に学習計画表を作成させ、目標をもって家庭学習に取り組ませるようにする。担任・家庭は、検印(週ごと)し、励ましの言葉(月末)を記入する。
- ③ 帰りの会後に「放課後学習会」の時間を設定し、自主学習の場を提供する。

表2 「家庭学習の手引き」の一部

家庭学習の手引き(家庭学習メニュー)-大島中版-

この学習表は、1年生は2年生に、2年生は3年生(研修生)に引き継がれる学習表です。各教科の先生のアドバイスも「学習表の活用方法」を参考にしてください。毎日家庭学習で取り組んでください。

教科名	メニュー
国語	学習 教科書の巻頭 読書メモ(書評書、書評メモ) 教科書の巻頭(2週間)
	検印 (学習メニュー) 学習の進捗を確かめ、(必要に応じて)学習内容を記入する。 (学習メニュー) 学習メニューを記入した後、検印(学習メニュー)の進捗を記入する。(5ヶ月の検印) 学習メニューを記入する際は、教科書の先生の手紙を参考にしてください。

【成果・課題】

- 生活習慣を見直したことにより、家庭学習時間を確保できるようになった生徒が増加した。
- 学習計画表を二者面談や三者面談の資料として活用している。
- 家庭学習の内容については、個人差が見られる。

【学校名】	気仙沼市立 条南中学校
--------------	-------------

提言 1	どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること
-------------	---

【実践のねらい】

生徒の実態を的確に把握し、学級に関わる全ての教員が生徒の実態を共通理解し、実態を踏まえた支援や対策を講じることで、生徒の学校・学級における安心感を育む。

【具体的な取組】

- ・学習・生活アンケート（年3回）やQ-U（年2～3回）、Q-UとNRTとのクロス集計結果を学級づくり、授業づくりに生かした。
- ・客観的なデータや分析結果をふまえ、情報の共有化を図ると共に、支援・援助策について検討し、学級活動、話し合いなど、生徒の実態に応じた指導を行った。また、養護教諭、カウンセラーとも連携し、非承認群、要支援群生徒に対するカウンセリングの計画的な実施に役立てた。→教員同士の情報の共有・協働体制を大切にする。
- ・座席の配慮及び、座席表の活用→授業づくりに活用した。

【成果・課題】

- 研修会を重ねながら、これまでの取組の中から有効だった取組や手立てを確認し、生徒の情報を共有しながら、同じ方向を向き、歩調を合わせながら生徒への支援体制を整えることができた。
- 要支援の生徒やよい変容が見られない生徒→これまでの手立てが有効であったかを検証（教科・学級において）し、今後の手立てと対策を改善する。

提言 2	子供をほめること、認めること
-------------	-----------------------

【実践のねらい】

授業や諸活動の中でかかわり合いを重視したり、意欲を高めたりするように指導の改善や工夫を図ることで、温かい学級づくり、仲間づくりの中で自己肯定感、自己有用感の高まりを目指す。

【具体的な取組】

- ・朝の会や帰りの会のもち方を工夫し、望ましい人間関係の構築や自己肯定感を高めたりする指導を行った。
- ・生徒を認め、活躍できる場面を設定し、結果だけでなく経過においての頑張りを掲示物や学級通信や学年通信で生徒の頑張りを周囲に発信し、賞賛するよう努めた。
- ・生徒が主体的に企画し、互いにかかわり合う自主的な活動の促進（生徒会活動やサブライズ企画）や、SGEやソーシャルスキルトレーニングを行った。

【成果・課題】

- 班やグループでの話し合い場面があることで、言葉を交わす場面が増え、自分の居場所を確認できると同時に他者との関わりが増えるため、他の活動場面でも交流する機会が増えた。
- 全体的に、生徒一人一人の自己肯定感は高まってはいるものの十分とは言えない。学級指導や教科指導において、一層の支援を継続的に行っていく。

提言 3	授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること
-------------	---

【実践のねらい】

導入場面で学習の流れを明示し、本時の学習課題や学習目標を提示し、学習への見通しをもたせる。各教科での授業の振り返りを確実に実施し、自らの学びを実感し、学習の主体的な学びにつなげる。

<p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードやワークシートを活用し、導入場面で学習の流れを明示した。 ・各教科の振り返りの例↓ 5教科：練習問題、適用問題、小テスト、授業感想、授業のまとめ、自己評価など 技能教科：実践、実技、テスト、振り返り（感想）、自己評価など
<p>【成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ホワイトボードやワークシートで授業の流れ（手順や内容）を提示したことで、学習や作業に遅れがちな生徒にとって、活動の目安となったり、見通しをもって授業を受けたりしている様子が見られた。技能教科では、次に何をするのか考えて生徒が進んで声を掛け合い行動する姿が見られるようになり、次の活動への動きも早くなった。 ●振り返りのねらいを明確にする。 →本時の目標と照らし合わせて考え、振り返りの手立ての有効性を考え、吟味する。

提言 4	自分の考えをノートにしっかり書かせること
<p>【実践のねらい】</p> <p>考える場や思考・説明したり、表現したりする場を意図的に設定し、多面的・多角的な見方や考え方を身に付けさせる。</p>	
<p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で書く活動の位置付けを図る。 →ノートやワークシートにメモ欄を設け、課題に対する自分の考えや気づき、友人の考えをメモしたり、大切だと思ったところ分かったことなどを書かせた。 	
<p>【成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○メモを書くことで、考えや情報が整理され、思考の広がりや促す様子が見られた。 ○他者の意見を聞いたり、比較したりすることで、自分の考えを深めたり、新たな気づきが生まれたりする様子が見られた。 ●自分の考えを書くことが苦手な生徒への支援・指導方法の工夫。 	

提言 5	家庭学習の時間を確保すること
<p>【実践のねらい】</p> <p>家庭との連携を意識した取組みや家庭学習と連動させた授業づくりを行い、家庭での学習のさらなる充実を目指す。</p>	
<p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Jump Up カード（家庭学習点検カード）を活用し、家庭での学習の様子や生活リズムの把握し、生徒一人一人に応じた支援に役立てた。学校・学年・学級便りでの啓もうを図った。 ・仮設住宅など家庭の事情で、家庭学習の場の確保が難しい生徒に対して、放課後や長期休業中の学習スペースの提供を行った。 ・授業に生かす家庭学習の取組として、予習型と復習型に位置づけた家庭学習を各教科で工夫した。 	
<p>【成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学期を追うごとに家庭での学習時間が増え、各学習状況調査の結果から、県平均、全国平均と比較しても良好な取組が見られた。 ○予習課題を導入とした授業では、本時の学習課題やねらいに沿った疑問や発言が見られ、興味・関心をもって授業に取り組む様子が見られた。 ●学習時間や学習量の割に、成果が上がらない生徒もおり、個別支援や着実に力となる学習方法・内容の充実を目指す指導を工夫したい。 	

【学校名】 気仙沼市立 面瀬中学校

提言 1

どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること

【実践のねらい】

生徒が、安心・安全で落ち着いた学校生活を送ることができるように、全職員で積極的に声掛けしながら様子を観察・情報収集し、生徒理解を深める。

【具体的な取組】

- ・ 教育相談や生活調査から、変化があった生徒に教員側から声を掛けて様子を把握する。
- ・ 登下校指導や生徒が職員室へ出入りする際など、あいさつとともに会話を交わしながら生徒の様子を観察する。
- ・ 授業後、教室に残ったり、早めに教室に行ったりするなど、休み時間や給食準備等の時間は、積極的に生徒と関わり生徒観察と声掛けを行いコミュニケーションをとりながら、情報収集に努める。

【成果・課題】

- 複数の目で生徒の状況を把握できるため、諸問題等に素早く対応できた。
- 教員の生徒に関する情報交換が増え、生徒理解が深まった。
- 生徒にバランスよく声掛けし、生徒理解を一層深めていくこと。

提言 2

子供をほめること、認めること

【実践のねらい】

生徒が主体的に活動する場を設定し、教員・生徒間で認める機会を増やすことで、自己肯定感を高めていく。

【具体的な取組】

- ・ リーダー養成研修会でリーダー・サブリーダーを育てる。
- ・ 諸行事等で役割をもたせて活動させ、生徒間で認める場を設定する。
- ・ 教員間で休み時間などでも積極的に情報交換を行い、情報を共有し誰でも知っているという安心感を生徒に与える。

【成果・課題】

- 生徒は、役割を果たしたことで満足感を味わうとともに、行動を周囲に認められたことが自信になった。また、それが次の活動への意欲付けにつながった。
- 日常的に自己肯定感を感じさせていくような仕掛けづくりを全職員で行っていくこと。

提言 3

授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること

【実践のねらい】

ねらいの板書と振り返り（小テスト・自己評価）を行うことで、1時間ごとの授業にまとまりをもたせて充実を図る。

【具体的な取組】

- ・ 各教科とも、毎時間授業のねらいを板書する。
- ・ 教科の特性によって小テストを実施したり、自己評価カードを作成し記入させたりする。

【成果・課題】

- まとまりをもった授業展開と生徒のノート整理ができた。
- どの生徒にもやさしい板書の仕方（色遣い等）を各教科共通で取り組んでいくこと。

提言 4**自分の考えをノートにしっかり書かせること****【実践のねらい】**

考えを比較したり、まとめたりする際には友人の考えも記述させ多様な表現方法に気付かせたり、日記を書かせたりすることで、自分の考えを書くためのスキルアップを目指す。

【具体的な取組】

- ・ 自分の考えと友人の考えを比較するために異なる友人の考えをノートに記述させる。また、自分の考えを深められるような友達の考えをノートに記述させる。
- ・ 家庭学習の最後に3行日記を書かせる。

【成果・課題】

- メモする習慣と様々な表現の仕方があることに気付くきっかけづくりになった。
- 3行日記を書くことにより、1日の出来事を簡潔に記入したり、自分の感じたことをうまく表現したりできるようになってきた。
- 思考力や表現力の育成に向けて、各教科の取組を情報交換しながら指導内容や方法を共有し、全体で継続して実践していくこと。

提言 5**家庭学習の時間を確保すること****【実践のねらい】**

授業・補助教材と「おもスタ」、家庭学習を連動させて、家庭学習の時間確保とともに学習習慣を確立できるようにする。

【具体的な取組】

- ・ 試験範囲を提示し、家庭学習で勉強させ、毎週木曜日に「おもスタ」（小テスト）を実施して学習内容の定着を図る。

【成果・課題】

- 「おもスタ」の合格に向けて、勉強するようになった生徒が増えた。
- 学習内容の定着の底上げを図ること。

【学校名】	気仙沼市立 新月中学校
--------------	-------------

提言 1	どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること
-------------	----------------------------------

【実践のねらい】

- ・生徒が安心して過ごせる学校にするため、生徒理解に努め、全職員で見守る体制をつくる。

【具体的な取組】

- ・学校生活アンケート、Q-U、教育相談等を実施し、主任会や職員会議で情報を共有する。
- ・チェックリストを活用し、毎日全ての生徒に声を掛けることを目標とする。
- ・帰りの会で一言日記を書き、担任がコメントを書く。

【成果・課題】

- 様々なアンケートは客観的な理解につながる。また、全職員で情報を共有することで積極的な生徒指導につながる。
- 直接声掛けすることで、小さな変化に気付き、指導のきっかけになることがある。
- 声掛けが一部の生徒に偏らないようにチェックリストを活用するなど工夫する必要がある。

提言 2	子供をほめること、認めること
-------------	----------------

【実践のねらい】

- ・生徒主体の学級づくり、仲間づくりを進め、認める場をつくる。
- ・授業の中で達成感や自己有用感をもたせる。

【具体的な取組】

- ・朝の会や帰りの会で、コミュニケーションを図る活動や良さを認め合う活動を取り入れる。
- ・生徒が主体的に取り組む係活動や委員会活動を工夫し、個々の役割を明確にし、できたことをほめる。
- ・授業中は生徒一人一人の考えを大切に、良い気付きは全体で共有する。
- ・ペアやグループなど学習形態を工夫し、生徒同士の認め合いを大切にする。

【成果・課題】

- 小さな達成感の積み重ねが新たな目標を作り、次の行動の意欲となっている。
- 生徒同士が互いに認め合う活動を取り入れたことで、自己肯定感や自己有用感を高め、より良い生徒集団の形成につながった。
- 活動がマンネリ化しないように工夫が必要である。

提言 3	授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること
-------------	--

【実践のねらい】

- ・授業のねらいを明確にし、まとめと振り返りの時間を位置付け、学習内容の定着を図る。

【具体的な取組】

- ・単元に身に付ける力と本時のねらいを明確にし、見通しをもって授業に取り組ませる。
- ・学習のまとめと振り返りの時間を確保するように授業の進め方を工夫する。

【成果・課題】

- 学習課題を明確にすることで、生徒は見通しをもって主体的に授業に取り組むことができた。
- まとめと振り返りの時間をしっかりと確保するため、指導過程を吟味し、授業の進め方を工夫する必要がある。
- 評価方法の在り方を検討するとともに、自己評価能力の育成を図るための工夫が必要である。

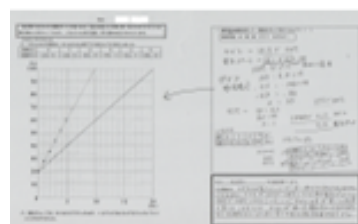
提言 4 自分の考えをノートにしっかり書かせること

【実践のねらい】

- ・メモを取る習慣の形成を図るため、日常的にメモの取り方を指導する。
- ・根拠を明確にして自分の考えを書かせるためのノート指導やワークシートの工夫を行う。

【具体的な取組】

- ・全ての教科で、ワークシートに「自分の考え」→「交流時のメモ」→「振り返り」の三段階を位置付け、習慣化させる。振り返りでは、課題に対するまとめを、根拠を明確にししながら自分の言葉で書くことを重視している。
- ・毎週1回新聞コラムの書き写し活動を行い、さらにコラムについて感じたことや考えたことを書かせる。
- ・総合的な学習の時間に全校縦割り交流活動「サークルタイム」を実施する。級友の意見を聞く際は必要なことを簡潔にメモさせる。最後に「書く時間」を確保し、意見交流を通して自分がどのように変容したのか文章でまとめさせる。



ワークシートの例



サークルタイムの様子

【成果・課題】

- 校内研究に位置付け、全職員の共通理解のもと、全ての教科や様々な場面で取り組んでいるので、メモの習慣が身に付き、級友の考えを自分の考えに生かそうとする姿勢が高まった。
- サークルタイムは、下級生が上級生の表現やスキルを学ぶ良い機会となっている。
- 書くことに個人差があるため、個に応じた支援の在り方を考えていかなければならない。

提言 5 家庭学習の時間を確保すること

【実践のねらい】

- ・望ましい学習習慣を形成し、学習内容の定着を図る。

【具体的な取組】

- ・「家庭学習の手引き」を作成し、教科毎に学習内容や方法について指導する。
- ・授業内容と関連付けた課題（予習・復習）を与え、授業に生かす。
- ・家庭学習ノートに学級担任や教科担任が励ましの言葉やアドバイスを書いたり、生徒の実態に応じた課題を与えたりするなど個に応じた支援を行う。

【成果・課題】

- 学級担任の細やかな声掛けや工夫により、ほぼ全ての生徒が家庭学習ノートを提出している。
- 自ら課題意識をもって主体的に学習に取り組んでいる生徒は少ない。参考となる家庭学習ノートを紹介したり、教科担任と連携を図ったりするなど方策を講じていきたい。

【学校名】 気仙沼市立 唐桑中学校

提言 1

どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること

【実践のねらい】

「来がい」「居がい」「学びがい」のある学級・学校づくり

【具体的な取組】

- ・朝の会、帰りの会において、生徒からのスピーチを実施し、教師、同級生から感想を発表する。
- ・曜日交代制で担任、部活動顧問、学年所属による家庭学習ノートを点検し、コメントを付記する。
- ・スクールバス発着時間を利用し、教師が一声かけながら出迎え、見送りをする。

【成果・課題】

- 生徒同士の温かい人間関係の構築
- 生徒と教師の共感し合える雰囲気醸成
- マナーによる活動の停滞

提言 2

子供をほめること、認めること

【実践のねらい】

学習への能動性の形成と「評価」につなげる学習成果の積み上げ

【具体的な取組】

- ・空き時間を利用し、他教科の授業をオープン参観したり、学習支援したりする。
- ・一言英語（Challenge, Try hard, Good Job）を利用し、学習への意欲、興味・関心を喚起する。
- ・座席表により生徒の得意・不得意を把握し、「評価」の累積につなげる。

【成果・課題】

- 自己肯定感、満足感の獲得
- 学習意欲の高揚
- 表面（言動）と内面（洞察）からの意欲面の見取り

提言 3

授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること

【実践のねらい】

「やってみよう」「分かった」「できた」の実感

【具体的な取組】

- ・「教科の学び方」で提示した学習の筋道（流れ）を学習訓練として徹底する。
- ・日常生活や学校生活に即した切実感、必要感のある課題・ねらいを設定、明示する。
- ・レディネス、プレ、ポストの各テストを実施し、学習内容に関する実態を調査（把握）する。

【研究主任研修会での意見交換を踏まえて】

- ☆単元構想（実態把握，ねらいの細分化（単位時間），ねらいに迫る手立て）を構築する。
- ☆「単元学習計画表」の配布（掲示）により，学習の見通しを共有する。
- ☆「指導過程基本パターン」に沿った授業を展開する。
- ☆ねらいへの達成度（定着度）を見取る適用問題やペアによる本時の内容把握により，評価や補充指導に生かす。
- ☆「条件」「（書く）ポイント」「キーワード」を示し，授業への感想をノートに書かせる。

【成果・課題】

- 明確で具体的な評価規準の設定
- つまずきの把握による補充指導の手掛かりの獲得
- 生徒一人一人の顔を思い浮かべての「授業づくり」

提言 4

自分の考えをノートにしっかり書かせること

【実践のねらい】

「深めたり，広げたりした考え」（思考過程）を「まとめさせる」（把握する，構造化する）

【具体的な取組】

- ・生徒の発言（反応）と発言（反応）を絡め，思考と表現を促す発問を行う。
- ・ノートや学習シート，ホワイトボードを利用し，「個人思考」を可視化させる。
- ・板書を利用し，「共同思考」を構成する。

【成果・課題】

- 生徒の発言の丁寧な取り上げ
- 書くことへのスキルアップと生徒相互のやりとりの活発化
- 「発問」と「指示」の曖昧さ

提言 5

家庭学習の時間を確保すること

【実践のねらい】

自律的，自発的な学習の推進と知識基盤の形成

【具体的な取組】

- ・各教科における家庭学習内容（復習版，予習版）の明示
- ・学習計画表の立案と計画の実施
- ・家庭との連携（21：00以降の通信機器の不使用，家庭・学校間でのコメント交換）

【成果・課題】

- 授業と家庭学習の連動
- 必要なことを自分で選択する主体的な自学自習の形成
- 学習意欲の持続化

【学校名】 気仙沼市立 津谷中学校

提言 1

どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること

【実践のねらい】

教師と生徒が、または生徒同士が安心して会話ができるような温かい人間関係を構築する。

【具体的な取組】

- ・朝のあいさつ運動を実施し、生徒の登校の様子を確認するとともに声掛けを行っている。
- ・月に1回「学校生活に関するアンケート」を実施し、学校生活の様子の把握に努めている。
- ・生徒理解研修会の他、職員会議においても毎月、情報交換を行い、生徒理解に努めている。
- ・学校全体で清掃指導に力を入れ、生徒とともに活動しながら指導している。
- ・授業の中で発言の場を確保し、一人一人の考えを受け止める機会を設けている。

【成果・課題】

- あいさつ運動を通して、自ら元気よくあいさつできる生徒の割合が増えてきている。
- アンケートに悩みがあると記入している場合は、すぐに面談するなどの即対応をしている。また、スクールカウンセラーへ悩みを相談している様子が見られる。更に、人間関係を深めていく必要がある。

提言 2

子供をほめること、認めること

【実践のねらい】

他と関わる場面や互いに認め合う活動を通して、自己肯定感・自尊感情を高めていく。また、継続的実践によって自他を尊重できる環境を形成するとともに、安心・安全な居場所・仲間づくりを推進する。

【具体的な取組】

- ・学校行事で生徒の実行委員会を組織し、企画・運営に携わることを通して主体性の伸長を図り、振り返りを通して成就感を味わわせる。
- ・意図的指名による発表で考えを深めたり広げたりしながら達成感をもたせる。
- ・朝の会や帰りの会の時間に互いのよいところを確認する時間を設定する。

【成果・課題】

- 生徒の感想に「頑張ってよかった」という内容が多くなり、自己肯定感・自尊感情が少しずつ高まりつつある。
- 帰りの会での振り返りなどで、他者のよさに目は向けるようになってきたもののマンネリ化もみられる。

提言 3

授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること

【実践のねらい】

生徒たちに授業のねらいを確実に意識させ、ねらいに基づいた授業を展開することで、課題解決への意欲を高め、達成感を味わわせる。

【具体的な取組】

- ・適用問題で授業の理解度を確認するとともに、小テストや単元テストで定着を図る。
- ・授業のねらいを板書等で示し、見通しをもって授業を展開する。
- ・授業のまとめと振り返りの時間を確保する。
- ・校内研修会等を通して、発問や指示、説明をよりわかりやすく行えるよう努めている。

【成果・課題】

- 課題意識をもって授業に臨んでいる生徒が増えてきている。
- 的確な発問や指示ができるように授業研究等を行い、教師の指導力を高めていく必要がある。

提言 4**自分の考えをノートにしっかり書かせること****【実践のねらい】**

学習内容を後で確認できるノートづくりの指導を行うとともに、自分や友だちの意見を書き留めることで、考えをまとめたり深めさせたりする。

【具体的な取組】

- ・身に付けさせることを精選して、書く時間を確保する。
- ・1単位時間の板書を構造化する。
- ・各教科ごとにノートの作り方を指導し、よいノートの例を紹介する。
- ・授業のみならず連絡ノート等においても、メモをとる習慣化を図っている。
- ・根拠を明確にして自分の考えを書くことを授業に取り入れている。

【成果・課題】

- ノート指導やメモのとり方を通して、書く力、表現力が伸長しているように感じられる。
- 根拠をあげられなかったり、理由付けが明確でないことがみられるので、学習形態や学び合いを工夫していく必要がある。

提言 5**家庭学習の時間を確保すること****【実践のねらい】**

家庭学習の習慣を定着させるとともに、学習方法を指導することにより学ぶ意欲と学びの質を高める。

【具体的な取組】

- ・「家庭学習のすすめ」を配布し、生徒へ家庭学習の仕方を具体的に指導するとともに、保護者にも声掛け等の協力を依頼している。
- ・「家庭学習カード」などを活用し、学習時間や学習内容を確認している。
- ・自主学習ノートに励ましの言葉や取り組みせたい課題を提示している。
- ・週1回の放課後学習会や長期休業中の学習会を通して、学校で自主学習ができる場や時間を提供して、生徒の家庭学習を側面から支えている。

【成果・課題】

- 家庭学習の習慣が定着している割合が高まっている。
- 家庭学習の時間が短い傾向が見られるので、学びの必要性を感じさせたり、学ぶ楽しさを味わわせることにより学びの質を高めていかなければならない。

【学校名】 気仙沼市立 小泉中学校

提言 1

どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること

【実践のねらい】

・生徒を複数の目で見守り，声掛けすることで，生徒が自分のことを話すことができる教職員を多くし，相談の機会を増やす。

【具体的な取組】

・「全職員が全生徒の担任である」という教職員での意識を統一する。
・積極的なチャンス相談の機会をもつ。年間行事予定以外の個人相談を各学年で計画する。
・毎日の自主学习ノート点検を教員持ち回りでを行い，学習指導コメントを書き込む際に，合わせて文章での一人一人とのコミュニケーションをとる。
・各種生活アンケート等に対応して相談を行う。その際，積極的にスクールカウンセラーを活用する。

【成果・課題】

○担任や学年担当の教諭以外の職員とも，積極的に会話できる関係づくりができた。
○なかなか自分の事を話さない生徒からも，話を聞く機会を多くすることができた。

提言 2

子供をほめること，認めること

【実践のねらい】

・よりよい教師の声掛けの仕方について研修し，生徒の自己有用感を高める。
・生徒相互が互いを認め合う人間関係づくりを行う。

【具体的な取組】

・校内研修の研究授業研修会の中で，教師の生徒への机間指導や一斉指導での話し方について検討し，声の掛け方や発言の活かし方などを確認した。
・生徒が相互を認め合うようなコメントできるカードを活用する。また，コミュニケーションの仕方について学級指導を行う。

【成果・課題】

○丁寧で生徒一人一人の人格を尊重する声の掛け方を徹底することができ，生徒が自信をもって発言できる雰囲気づくりができた。
○生徒が互いを認め合う関係ができた。

提言 3

授業のねらいを明確にするとともに，授業の終末に適用問題や小テスト，授業感想を書く時間を位置付けること

【実践のねらい】

・校内研修の中で，授業のねらいを明らかにすることや，感想を書く時間を位置付けることの大切さを確認し，実践するようにする。

【具体的な取組】

- ・研究授業で、授業のねらいを明らかにすることの大切さを確認し、各教師が実践した。
- ・小さいホワイトボードに、授業の流れ等を書いて、見通しをもたせた。
- ・各教科の教材研究により、授業の終末に適用問題等を取り入れる授業展開を行うようにした。

【成果・課題】

- 授業のねらいを板書したり、ノートに書かせたりすることが、しっかり行われている。
- それぞれの方法を各教科で計画する際に、授業の終末に小テストや感想を書く時間を位置付けることがしやすい教科と、行いづらい教科がある。

提言 4**自分の考えをノートにしっかり書かせること****【実践のねらい】**

- ・校内研修として取り組むことで、生徒の思考の可視化を促進するための効果的な方法を見いだす。更に、授業で実践することで、生徒自身の考えを深めるようにする。

【具体的な取組】

- ・校内研究のテーマとして取り入れ、全教員が研究授業を行う中で、次のようなことを検討し、各教科の授業で実践する。
 - ・考えを書くときの文章表現の指導や、文章以外の表現方法を工夫する。
 - ・生徒に考えさせるための準備や発問の仕方などの授業展開を工夫する。
 - ・ワークシートとノートの使い分けをする。

【成果・課題】

- 積極的に自分の考えを書かせ、表現させることで、少しずつ表現の技能が高まっている。
- 書き方指導として決定的な方法などはなかなか見つからない状況である。

提言 5**家庭学習の時間を確保すること****【実践のねらい】**

- 個別に家庭学習の方法を指導することにより、それぞれの学習状況に合わせて学習する方法を身に付けさせる。

【具体的な取組】

- ・生徒会活動の自主学習ノートを活用した取組に加えて、教師が持ち回りで点検、助言することで、個別に具体的な家庭学習方法について指導する。
- ・保護者向けの便りに、家庭学習の大切さを知らせるとともに、学年懇談会等で家庭学習に対する学校の取組を説明し、協力を呼びかける。

【成果・課題】

- 全員が毎日の家庭学習を行っている。
- 効果的な学習方法について、個別に助言できるので、どの生徒も学習方法の工夫ができています。
- 保護者が家庭学習時間の確保や学習環境づくりなどで協力的になってきた。

【学校名】 気仙沼市立 大谷中学校

提言 1

どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること

【実践のねらい】

・Q-Uや学校生活アンケートを行って学級や生徒の実態を把握し、教職員が共通理解を図ることをとおして、生徒一人一人に適切な声掛けを行う。また、生徒との個別面談の機会を設け、生徒の悩みや不安に対応する。

【具体的な取組】

・Q-Uの結果に基づいて、教員全員で学級の実態把握とそこから見える課題、これからの指導の方向性について話し合い、実践する。
・教員全員が同じ方向性で生徒に接し、生徒にとって居心地の良い学級や学校をつくっていく。

【成果・課題】

○Q-Uの結果に基づき、全学級について課題と対策の共通理解を図った。
○定例の面談以外に、生活アンケートの結果をもとに生徒と随時面談を行うなど、生徒と機会を捉えて話すことができた。
●今の声掛けで効果が上がっているのか、よりよい方法はないかなど検討する必要がある。

提言 2

子供をほめること、認めること

【実践のねらい】

・学級や学校生活の中で、生徒が活躍できる場面や、授業の中で生徒同士が学び合う場面を設定し、互いに認め合うことで、生徒の自己有用感を高める。

【具体的な取組】

・生徒の実態調査や主任会、学年部会での生徒情報交換をもとに、生徒の現状を把握する。
・委員会活動や学級の係活動で一人一役を担当させ、生徒が活躍できる場を設定する。
・授業の中で教師が生徒のよい点を認めるだけでなく、生徒同士がよいところを見つけて褒め合う活動を取り入れる。

【成果・課題】

○これまで気付かなかった生徒のよさに気付くことができた。また、生徒同士が互いによさを認める場面が増えた。
●生徒を活躍させる場を十分に設定できないことがあった。
●道徳の授業等では、多くの生徒に発言させるなど、生徒のよさを引き出す工夫が必要である。

提言 3

授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること

【実践のねらい】

・学習課題とまとめを意識した授業展開をとおして、生徒が達成感や成就感を味わうことができる授業づくりを行う。

【具体的な取組】

- ・「今日の学習」として本時の課題を提示し、課題を意識させながら学習に取り組ませる。
- ・振り返りの場面を設定し、本時の課題についてわかったことを自分の言葉でまとめたり、見方や考え方で深まったことや気づいたこと、感想を書かせたりする。
- ・課題設定や授業展開を工夫して指導略案を作成し、授業を行う。参観のポイントをしぼり、検討会ではワークショップ形式で授業検討会を行う。

【成果・課題】

- 学習課題を明確に提示したことで、生徒は見通しをもって授業に取り組んでいた。
- 生徒にとって明確なねらいとなるよう、課題設定の工夫がさらに必要である。

提言 4**自分の考えをノートにしっかり書かせること****【実践のねらい】**

- ・授業の中に自分の考えやわかったことを書く活動を多く取り入れ、書くことのステップアップを図る。また、ヒントやキーワードを提示し、書くための援助を行う。

【具体的な取組】

- ・自分の考えや思いを他者に説明するために、書く活動を取り入れる。
- ・根拠や既習事項（キーワード）をもとに、自分の考えをまとめて書く場面を設定する。
- ・友達の意見を聞いて赤ペンでメモを取らせる。

【成果・課題】

- 他の生徒の意見や考えを聞いて積極的にメモをとる生徒が増えてきた。
- 生徒がノートに書くことを意識した板書のあり方を工夫できなかった。

提言 5**家庭学習の時間を確保すること****【実践のねらい】**

- ・家庭学習ノートの提出を促し内容を添削することで、生徒の学習意欲を喚起する。
- ・生徒の実態に合わせた課題の提示や家庭学習方法の指導をとおして、自力学習できるようにする。

【具体的な取組】

- ・全学年毎日1ページ以上を目標に家庭学習ノートを提出させる。さらに、ノートの添削をとおして家庭学習の内容の充実を図る。また、新聞のコラムの視写など誰でもすぐに取り組むことができる課題を与えて取り組ませる。
- ・長期休業を活用し、学習会を実施する。基礎・基本の定着を図るとともに、自習の時間を設定し、生徒が自ら学習する素地を固める。

【成果・課題】

- 家庭学習ノートの提出が定着しており、家庭学習の時間もある程度確保されている。
- 教師主導型であり、生徒の自主的な学習になっていない。また学習内容を充実させるための指導が必要である。
- 効果的な学習会のもちかたを検討する必要がある。

【学校名】 南三陸町立 志津川中学校

提言 1 どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること

【実践のねらい】

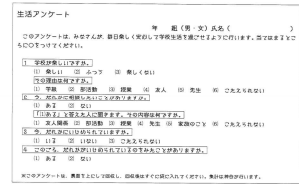
- ・生徒と積極的にコミュニケーションを取ることで、学校生活における変化をとらえる。
- ・生徒と多くの時間を共有することでよりよい人間関係をつくる。
- ・発表の負担を軽減し、自信を持って発表できるようにする。
- ・生徒の発言を活発化させ、授業への意欲を高めさせる。

【具体的な取組】

- ・毎月実施している生活アンケートの結果を職員間で共有し、生徒への声掛けを行う。
- ・授業に早く行ったり、終わっても教室に残ったりすることで、生徒と過ごす時間を多くつくる。また、ノックやイムの前席の声掛けを行う。
- ・生徒のつぶやきや疑問に丁寧に答える。
- ・机間指導の中で、生徒の解答や意見を(正誤に関わらず)認める。
- ・座席表を活用して、生徒の発言や指名する生徒をチェックすることで多くの生徒に発表させる。
- ・英作文練習では、T2と分担して個別に点検・指導を行う。(英語)
- ・同じような課題をもった生徒を意図的にグループ編成することで、声掛けをしやすくする。(保体)

【成果・課題】

- アンケートの結果から、悩みを抱えている生徒に声掛けをすることができた。
- 生徒指導上の問題を早期に見出し、対応することができた。
- 始業前の着席が習慣化してきた。
- 自分の声を聞いてくれたという喜びから学習意欲が高まった。
- 失敗を恐れず、発言しようという姿が見られた。
- 自信をもって英作文を発表させることができた。(英語)
- グループ内で声掛けをしようという様子が見られた。(保体)
- より実態を把握できるようなアンケートを工夫したい。
- 発言は多くなってきたが、限られた時間の中で、折々授業が騒がしくなってきた。



生活アンケート

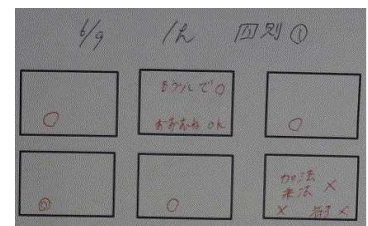
提言 2 子供をほめること、認めること

【実践のねらい】

自己肯定感を高めさせることで、学習意欲を向上させる。

【具体的な取組】

- ・机間指導でアンダーラインやサイドラインを引くなどして生徒の意見を認め、励ます。
- ・間違った考え方にも、ほめて、認めてから修正するよう心がけた。
- ・生徒の意見を肯定的に受け止めながら机間指導を行う。
- ・発表した生徒を全体の場でほめるようにした。
- ・座席表を活用して、生徒の成長を記録する。(数学)
- ・生徒の対話活動や作文を全体の場で紹介する。(英語)



数学での座席表活用例

【成果・課題】

- ほめること、認めることで学習意欲が高まり、意欲的に課題に取り組んだ。
- よりよい発表にしようとして一人一人が作文活動に取り組んだ。(英語)
- 生徒の成長を継続的に記録することで、ほめる機会が増えた。(数学)

提言 3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること

【実践のねらい】

- ・本時のねらいを提示し、見通しをもって学習に取り組ませる。
- ・学習に問題意識をもたせ、学習内容を具体的に理解させる。
- ・終末に本時で学習した内容を定着させる。

【具体的な取組】

<ねらいの提示(導入)>

- ・導入にねらいを板書し、視写させる。
- ・ICTを用いて本時のねらいを提示する。(社会)
- ・板書カード「Today's Goal」を用いてねらいを提示する。(英語)
- ・学習カードを活用して本時のねらいを提示する。(保体)

<振り返りの活動(終末)>

- ・終末に本時で学習した内容を文章で表現してまとめる活動を取り入れる。
- ・振り返りシートで授業前後の学習状況を客観視させる。
- ・適用問題に基本問題と応用問題を用意する。(理科)
- ・学習カードに本時の取組と成果をまとめさせる。(保体)

陸上競技「ハードル走」学習カード

年 組 番 氏 名

1 目標時間の設定

①50mタイム→ 秒 50mハードル走のタイムを記録しよう!

②50mハードルタイム→ 秒 2分以内での記録

③50mハードル→ 秒 7分以内での記録

2 各時間の目標

時間	本時の目標
15分前	ハードル走の特色、指導者の役割を確認しよう!
25分前	目標設定を確認しよう!
35分前	目標見、ハードル走の動作や注意事項を確認しよう!
45分前	指導者の指導や声かけを確認しよう!
55分前	ハードル走の動作や注意事項を確認しよう!
65分前	今年までの結果を確認しよう!
75分前	記録を確認しよう!

学習カードの活用(保体)

【成果・課題】

- 見通しやねらいをもって取り組ませることができた。
- 達成度を意識することで、家庭での学習の内容が具体化してきた。
- 学習内容を文章やことばで表現できるようになってきた。
- 他教科や新聞コラムの視写活動などと連携して学校全体で取り組む必要がある。

提言 4

自分の考えをノートにしっかり書かせること

【実践のねらい】

- ・思考の過程を可視化することで、客観的・論理的に解答を導くことができるようにする。
- ・発表原稿をつくることで、自信をもって発表できるようにする。

【具体的な取組】

- ・指導過程の中に「書くこと」を意図的に設定する。
- ・板書やワークシートを思考の流れがわかるように工夫する。
- ・知識、思考、表現という段階を踏んだ書く活動を取り入れることで言語活動を充実させる。(社会)
- ・実験前に仮説をノートに記入させる。(理科)
- ・ノートを上下段に分割し、自分の考えや友達の見解などを記入させる。(国語)
- ・鑑賞の授業において、初めて聴いたときと学習後に聴いたときの二回感想を書かせる。(音楽)
- ・校内研究の副題を「書くことに視点をのせた授業づくりを通して」とし、事前にグループごとの指導案検討会、模擬授業を行い、ワークショップ形式の事後検討会を行う。



指導案検討会の様子

【成果・課題】

- 書くことへの抵抗感が薄れてきている。(アンケートの結果より)
- 自分の考えを文章やことばで表現できるようになってきた。
- 書く力に個人差があり、指導が難しい。

提言 5

家庭学習の時間を確保すること

【実践のねらい】

- ・家庭学習の習慣化を図り、学習内容を定着させる。

【具体的な取組】

- ・学級担任や係が家庭学習のチェックや声掛けを毎日行う。
- ・学級通信や学習指導部通信で家庭学習の仕方や実践例を紹介する。
- ・NPO法人による放課後学習会や長期休業時の学習会を実施する。
- ・TV会議システムを利用した放課後学習会を実施する。
- ・テスト前(部活動中止期間)の放課後学習会を実施する。
- ・復習用のノートを配付し、その日に学習した内容のワークの問題を家庭学習で取り混ぜる。(数学)
- ・PTA、家庭と連携して携帯電話の使い方を指導する。



WEB授業の様子

【成果・課題】

- 各学年とも家庭学習ノートの提出率が高くなっている。
- スクールバス発車時刻までの放課後の時間を利用して学習時間を確保できている。
- その日のうちに復習させることで、学習内容が定着してきている。
- 家庭学習の質を高めさせる必要がある。

【学校名】 南三陸町立 歌津中学校

提言 1

どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること

【実践のねらい】

「Q-U」（年2回）や「学校生活アンケート」の結果をもとに、生徒の個々の現状を把握し、生徒の生活面や学習面での困難に対して学年や学校全体での対応を検討する。

【具体的な取組】

1 「Q-U」「学校生活アンケート」の実施

「Q-U」または「学校生活アンケート」を定期的実施することによって、生徒の個々の現状の把握を行った。生徒一人一人についてファイルを用意して、アンケート結果を蓄積することにより、個々の生徒についての変化を記録した。アンケートの結果については、集計するとともに、必要に応じて声掛けを行ったり、座席表や授業でのグループ編成に生かしたりしている。

2 スクールカウンセラーによる「心の授業」

スクールカウンセラーの協力を得て、学年や学級の実態に応じた、グループエンカウンターやソーシャルスキルの要素を取り入れた「心の授業」を実施している。

【成果・課題】

- アンケート結果を蓄積することによって、生徒の変化をとらえることができた。
- 学年や学級内で起きている、生徒の課題に即時対応することができた。
- 生徒の意欲や技能を高めるグループ編成について検討が必要である。

提言 2

子供をほめること、認めること

【実践のねらい】

生徒が発表する機会を意図的に増やし、教師の賞賛だけでなく、お互いに認め合う活動を通して自己肯定感や自尊感情を高める。

【具体的な取組】

1 発表の機会

(1) 授業内での発表の機会を設けるとともに、作品の展示などを行い、教師や生徒から賞賛される機会を積極的に設ける。

(2) 防災学習における各種訓練や諸行事において、全体での振り返り活動の時間を成果や成長を認める。

2 個人目標の設定

学期の始まりや行事に向けた時期に目標の設定を行い、反省を通して「目標がどれくらい達成できたか」、「目標に向けて不十分なところはどこか」を把握して自己の改善につなげるようにした。

【成果・課題】

- 積極的に発言する生徒が増えた。
- 展示された作品を鑑賞して認め合う姿が見られ、他の工夫を自分の力にしようとする生徒が増えた。
- 反省をどのようにして次の活動に結びつけるのかについての指導を十分にしていける必要がある。

提言 3	授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること
【実践のねらい】 校内研究で、1時間の授業のねらいを理解させ、目的をもって授業に臨ませる。さらにその授業で分かったこと、できたことを確認させる。	
【具体的な取組】 1 「学習についてのアンケート」の実施 「学習についてのアンケート」を実施し、「授業のねらいがわかっているか」などについて実態調査を行い、結果について職員全体で共通理解を図った。 2 校内研究の授業づくりの視点とする。 授業づくりの視点に「授業のねらいを明確にする」、「授業の終末の工夫」を入れた形式の指導案を作成し、研究授業、事後検討会を行った。	
【成果・課題】 ○ 「授業のねらい」の提示について、教師側の意識と生徒の意識の差を把握して、授業改善につなげることができた。 ○ 生徒が「今日の授業のねらい」について意識するようになった。 ○ 授業づくりの視点として設けることにより、授業の導入やまとめの時間を工夫して行うことができた。 ● 授業の感想などについて、表現方法の指導が必要である。 ● 100%の生徒が「授業のねらい」がわかるように、効果的な提示方法を検討する。	
提言 4	自分の考えをノートにしっかり書かせること
【実践のねらい】 自分の考えや感想などを書く力や思考力を高めるとともに、わかりやすいノートづくりを行うことができるようにする。	
【具体的な取組】 1 「学習についてのアンケート」の実施 「学習についてのアンケート」を実施し、「ノートに自分の考えを書いているか」などについて実態調査を行い、結果について職員全体で共通理解を図った。 2 校内研究の授業づくりの視点とする。 授業づくりの視点に「考えの記述」を入れた形式の指導案の形式を作成し、研究授業、事後検討会を行った。ノートづくりの基本形式を作成し、教科の特性に応じて、授業におけるノートづくりについて指導した。	
【成果・課題】 ○ 自分の考えを書いたり、授業でわかったことについて自分の言葉でまとめたりすることができるようになった。 ○ 多くの生徒が、自分の考えを書いたところがわかるノートづくりができるようになった。 ● 語彙の少なさや表現力の不足によってうまく考えを書けない生徒への個別の指導が必要である。	
提言 5	家庭学習の時間を確保すること
【実践のねらい】 家庭学習の時間をつくり上げるとともに、自分に合った学習方法を行う。	
【具体的な取組】 1 家庭学習ノート 家庭学習用のノートを用意させる。1日に宿題プリントを1枚配付して左側に貼らせ、右側には自分で工夫して学習に取り組ませる。担任や教科担当者が、学習方法についてアドバイスをする。3年生では、自分で工夫して学習に取り組むことができるようにする。	
【成果・課題】 ○ 家庭での学習習慣を確立することができた。 ○ 復習の方法について、個に応じた学習方法を提示することができた。 ● 基礎的な内容が定着している生徒により発展的な内容を提示するなど、より高いレベルの復習ができるようにする。 ● 学習時間を確保するための対策が必要である。	